

ALPeople 特集 ID80座談会 Alumni Newsの1コーナーとして好評の、同窓生の人生を紹介するA 今号の特集では、A_People拡大版として、

Alumni Newsの1コーナーとして好評の、同窓生の人生を紹介するA_People.

環暦を迎えつつある24期=ID80の方々3名を迎えて話を聞いた。



在学中の思い出を語り合うID80の3人

違い「を」わかるICU生。

日本でまだ「多様性」が認められなかった80年代に、全学生たかだか2000名、

一学年400名ほどの、東京・多摩地区の小さな大学の中には、すでに「多様性」があふれていた。

「多様性」とは、単に背景の異なる人々が集まっていることを表現するものではない。

そこに集まった様々な人々が、互いを認め合いながら平等に活動でき、相手を評価、尊重しあうことのできる社会の状態を表現するものだ。

「多様性」の宝庫であるICUを卒業したID80の若者たちは、「多様でない」といわれていた当時でも、

三者三様な人生をそれぞれに切り開き、「多様性を受け入れつつある」現在を作ってきたようだ。

彼らが何を思い、どんな人生を生き、これからどうしていきたいのかを聞いた。

文: 庄司良(本誌) 写真:〈座談会〉吉田繁美(24 ID80)、〈学内〉加藤菜穂(本誌)

―― 皆さん、本日はお時間ありがとうご ざいます。まずはICU在学時代を振り返っ てもらい、そこで経験されたこと、そして その後進んでこられた道についてお話をう かがいたいと思います。皆さんは、在学中 はどんな学生でしたか。特に楽しんでいた ことなどはありますか。

根本:私は、ICUに憧れて、ICUに入り たくて準備をしてきました。英語の勉強 などもその一つでした。ですが、実際に 入学するとまず、当時Freshman English Programと呼ばれていた英語の授業が週 に10コマ以上という状況にぶつかりまし た。入学後、一刻も早く大学らしい講義を 受けたかった私にとって、その時間があま り楽しく感じられなかったもので、ついつ い手抜きをしてしまいました。もちろん当 然の報いとして、卒業後にそのしっぺ返し

に遭い、結局、自力であらためて英語力を 身に付ける努力をすることになります。そ こは大きな後悔の一つです。

その他は、勉学とグリークラブの活動に バランスよく力を注いだ4年間だったと思 います。グリークラブには入学式の翌日か ら卒業式の当日まで4年間在籍し、うち2 年間は部長を務めました。当時、歌がうま くなかったので、せめて「行政」で貢献で

きればと思い、4年生の時も11月まで部長 を務めました。当時、「4年生で部長をや ると卒業に5年以上かかる」というジンク スがありましたが、私はそれを打ち破った 第一号部員だったはずです。

坂野:私は最初の2年間は、横浜から往復 4時間かけて通っていたので、朝早い授業 はつらかったです。でも女子校から共学に なったもので、毎日新宿、渋谷に寄って帰



中嶋さんが創った記念すべきWeekly Giants第1号と、2010年に発行された1000号突破記念号

る生活はとても楽しく、毎日うきうきと過 ごしていました。当初、成績は今一つでし たが、途中で、このままでは中途半端な人 生になると目覚め、様々なことに取り組み 始めました。一人暮らしにバイト、本もた くさん読んで、映画もミニシアター系のも のなどを見たりしていました。

中嶋:私は学生時代にやったことの一つ に、学内のコミュニティーペーパー、The Weekly Giants (WG) を始めたことがあ ります。WGは、私が初代の編集長として 創刊しました。1年次の冬学期にちょっと した思い付きで始めたものでしたが、それ が40年以上も続いているとは、正直驚き です。最近ではWeb版もあり、世界中で 読むことができます。





現在のPCルーム。コンピューターはずいぶん小型になった

転機は在学中に訪れた

──「ウィジャン」の創設者ですか! 皆さん精力的に大学生活を楽しんでいたん ですね。在学中のできごとで、特にその後 の人生に大きく影響を与えたようなことは ありますか?また、どんな分野に関心を持 たれていたのでしょうか?

根本:1年次の終わりに行ったビルマ(現 ミャンマー)旅行は大きなきっかけとな りました。私は小さいころビルマに2年半 ほど住んでいたのですが、13年ぶりに訪 問したその国で出会ったビルマ人との交流 が、私にとって大変刺激的でした。それま での関心は教育哲学にあったのですが、こ の旅行の後は、ビルマを中心とする東南ア ジアの歴史を学びたいと思うようになりま した。運良く、国際的な東南アジア史研究 者だった山本達郎先生と出会うことができ、 所属も当初の教育学科から社会科学科へ転 科し、自分の希望を実現させることができ ました。山本先生には大変密度の濃いご指 導を頂きました。特に、東南アジア史の講 義とアジア史上級特講という演習では、受

った、アナウンサー養成学校へ通い始めま した。勉強にも一層力を入れるようになり、 平日は勉強、週末は遊ぶという生活でした。 中嶋:私は、経済学関係のゼミに入って、 大学院生のチューターの下で、理論経済学 や国際貿易論を学んでいました。ゼミでは、 関連分野のテキストをもとに、よく夜遅く まで議論していました。それらは本当に懐 かしい思い出なのですが、そのときのゼミ での経験が、社会人になったあとの自分の 強みになっていたとも感じています。また、 コンピューターセンターによく出入りして いました。大学にあったIBMの大型コンピ ューターを「My Computer」のように使 っていました。卒論研究のためのデータ処 理にも使いましたが、他方、コンピュータ ーを使った麻雀ゲームの開発にも取り組ん でいました。その時に特許でも取得してい ればと、今でも悔やんでいます。 仕事は充実していたが、 さらなるステップへ

講生がわずか3人というときもあり、漢籍

や英語、仏語論文の予習に四苦八苦しまし

た。最後のレポート執筆にも苦しみ、締め

切り翌日の朝、千代田区一番町の先生のご

自宅に直接届けに行ったことを覚えていま す。そのとき、玄関口に出てきたお手伝い

さんに、「レポートの提出日は昨日でした

よね」と「指導」されたことも忘れられま

せん。山本先生には卒業論文の指導も仰ぎ、

先生の素晴らしい人格とその博覧強記の知

性は、今でも私に大きな影響を与え続けて

坂野:私はICUの交換留学制度に応募しよ

うとしていたのですが、希望の留学先に行

かれそうになくなってしまい、断念しまし

た。そこから将来について考えるように

なり、その後のキャリアへのきっかけとな

います。

皆さんきっかけが三者三様ですね! 卒業後はどのような道に進まれたのでしょ うか。

根本:卒業してすぐ、都立高校の世界史教 師として教壇に立ちました。ですが、山本



坂野尚子(旧姓土井)

BANNO (DOI), Naoko (24 ID80)

教育学科心理学専修。在学中は硬式テニス部、ICUフィ ルムクラブに所属。フジテレビのアナウンサーを経て、 コロンビア大学でMBAを取得。コンサルティング会社 勤務後、事業を興す。現在、「ネイルクイック」等を経 営する株式会社ノンストレスの代表取締役社長。



中嶋 隆

NAKAJIMA, Takashi (24 ID80)

社会科学科計量経済学専修。The Weekly Giants初代 編集長。日本銀行に入行し、主にシステム開発や内部監 査の業務に従事したほか、日本銀行旧小樽支店金融資料 館立ち上げなどに携わる。現在は、静岡にて金融機関常 勤監査の任を担いつつ、日本茶の勉強に励む。



根本 敬

NEMOTO, Kei (24 ID80)

社会科学科歴史学専修。在学中はグリークラブに所属し、 2年間部長を務めた。高校教師、ICUの大学院比較文化 研究科を経てビルマに留学。その後、東京外国語大学勤 務。現在、上智大学総合グローバル学部教授。

先生に勧められたこともあって、2年で退職し、ICUの大学院比較文化研究科に進学しました。これが卒業後の大きな転機でした。そして修士課程を終えた後、日本の文部省(現文部科学省)の奨学金でビルマに2年間留学し、帰国してICUの博士課程に進みました。そしてその後、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所で研究者となりました。

坂野:卒業後は、以前から目指していたアナウンサーの道に進みました。フジテレビに入社し、7年勤務しました。途中、ニューヨーク特派員も2年間務めました。仕事の環境には恵まれていましたが、ニューヨーク勤務中、経営者として活躍するアメリカ人女性の姿に刺激を受け、起業家になりたいと考えるようになりました。そこで仕事を辞め、コロンビア大学でMBAを取得しました。

中嶋:私は卒業して日本銀行に入行しました。日銀では、主にシステム関係や内部管理の仕事をしました。ちょっと面白かった仕事は、日銀旧小樽支店の建物を活用して、金融に関する博物館を造ったことです(現日本銀行旧小樽支店金融資料館)。博物館のことに精通している人が少なかったこともあり、WGを創刊したときのように、じぶんの感性を生かし、自由に仕事をさせてもらいました。

三者三様の社会人生活。 「みんなちがって、みんないい」

――皆さん、お仕事が充実していたようですね。社会人になってからのことを、もう少し詳しく教えてもらえますか?

根本:都立高校の教師という職業は、高校生の時からの夢でしたから、卒業後すぐに高校の教壇に立てたときはとても燃えていました。実際、忙しくも充実した日々でした。しかし、山本先生に勧められたことで研究者の道へと転身したわけです。東京外語大には18年近く勤務しましたが、2007年から上智大学外国語学部に移り、今は同学部から派生した同大学の総合グローバル学部に所属しています。「ビルマ近現代史を中心とする東南アジア地域研究」というのが、今の私の専門分野の表看板です。

振り返れば、そもそもICUに憧れて進学し、 在学中に「ビルマとの再会」もあって将来 への手掛かりを得て、その後実際にその道 へ深く踏み込むためにICUへ戻り、現在に 至るわけです。ICUは、全てのきっかけに なっていたのだと改めて思います。

坂野:私はとにかく起業家になりたかった。フジテレビ時代にニューヨークで出会ったのは、自らビジネスを主導する、かっこいい経営者の女性たちでした。「自分にもそんなことができるんじゃないか」、「そんな風になりたい」という思いが、起業家への道を選ばせたのです。だから、コロンビア大学でMBAを取った後は、そこで学んだことを実践し、やがて自分の会社を興すために、コンサルティング会社へ就職しました。

私が入社したピートマーウイックという 会社は、当時日本に進出したばかりだった ので、その日本法人立ち上げに携わること ができました。そこで積み上げたマネジメ ントコンサルタントとしての経験も、後で 大変役立ちました。自分の会社を立ち上げ たのはその後です。まず、キャリアコンサ ルティングの会社をつくりました。その後 しばらくして、ネイルサロンの経営を始め たのですが、それは、私自身があまりにも ネイルが下手だったため、ニューヨーク時 代にネイルサロンに通い始めたことがきっ かけです。当時日本にはネイルサロンなど ほとんどなく、私もそれを商売にしよう というより、「こんなサービスがあったら 素敵だ」というユーザー目線で始めまし た。そこから発展させた会社は、幸いにし て71店舗、社員300人以上を抱えるほど まで大きくすることができました。

中嶋:社会人としての生活は、ICUでの生 活とあまりにギャップが大きく、戸惑いを 感じたことも多々ありました。例えば、当 時のサラリーマン社会では、何人かで外食 する際には、上司が頼んだものと同じもの を頼む、という風潮がありました。違うも のを頼むと調理する時間に差が生じるので、 同時に食べ始め、同時に食べ終わることが できない。だから、そういうことが無いよ うにという気遣いです。ですから、そんな 席で自分の好きなものを頼むと、ちょっと 変なやつと思われてしまいます。こうした 違和感を、あるとき大先輩の同窓生にお話 をしたとき、「あなた、大変ね。それじゃ 生きづらいでしょ」と慰められました。こ のとき初めて、ICUで学んだことが何だっ たのかを実感しました。ICUでは、人と自 分が違うことに何の違和感もなく、むしろ、 「みんなちがって、みんないい」が当たり 前のことでしたから。

これからも、次の世代につながることを

一皆さん異なる環境で、それぞれに人生を切り開いてきたのですね。さて、皆さんは、今還暦という節目に差し掛かっていますが、どう感じておられますか。また、これからやりたいことなどについて、教えてください。

根本:これからやりたいと考えていることは三つあります。一つ目は、大学教員として定年退職の日まで教育に力を注ぐことです。もともと教育学科にいた人間ですし、高校の世界史教諭だった時期もあるわけですから、教育には人一倍の関心があります。昔とは大きく違う社会環境のなかで、現代の大学生を、知的にも精神的にも政治的にも自立した人間に育てたいという思いは、年を取るごとにますます強くなってきています

二つ目は、書きたい本がまだ何冊もあるので、なんとか時間を確保しながら、その執筆に取り組むことです。ビルマ近現代史に関する専門書のほかに、一般向けのわかりやすい本も書きたいですね。

三つ目は、退職後に大好きな鉄道に乗って日本中をまわることです。子どものころからの鉄道好き、いわゆる「乗り鉄」です。廃線跡を歩くのも好きなので、それも続けようと思います。そして、もし可能なら、鉄道運転士の免許を取って、死ぬ前にどこか、100メートルでもいいから、電車を運転してみたいです。

坂野:私は、「起業家に定年はない」とい う考えでいます。現在は、「ネイルクイッ ク」「スパネイル」など多くの店舗を経営 する一方、メーカーとして「ネイルパフェ ジェル」などのブランドでジェルや化粧品 を販売しています。まずはこれらをネイル 業界で世界のナンバーワンにしていきたい と思っています。そして次に、経営を通じ て社会への貢献をしていきたいと思ってい ます。女性の多い会社の経営者として努力 を続ける中で、子どもを持つ女性が働きづ らい現状や規制緩和の矛盾など、社会の仕 組みに対する問題意識は強くなりました。 最近、経済産業省の産業構造審議会などに 参加させていただけるようになったので、 ICUやその後の経験から学んだ多様なもの の見方をその活動に反映させられればと思 います。

例えば、私の会社が業界ナンバーワンというだけでなく、多様性あふれる会社として有名になれば、新しい社会をつくるうえでの大きな貢献になるのではないでしょうか。

中嶋:昨年還暦を迎え、人生の第4コーナ ーを回りました。50代までは、還暦を迎 えることに漠然と不安を抱いていたのです が、いざ60歳になってみるとまったく違 った景色が見えてきました。社会に出たと きの違和感が吹っ切れて、解き放たれたと いうのが実感です。自分の好きなことが気 兼ねなく自由にでき、充実した毎日を過ご しています。最近は、ICUのイベントにも よく参加しています。村上陽一郎先生や岩 井克人先生の公開講座などのほか、ICUの 学内で開催されている社会人向けの催しや 自然観察会、湯浅八郎記念館の講演会にも 行っています。先日はD館でお能の公演が あり、それも見に行きました。卒業生と会 う機会も増えてきています。40年前に埋 め込まれていたICUスイッチが入ったのだ と思います。

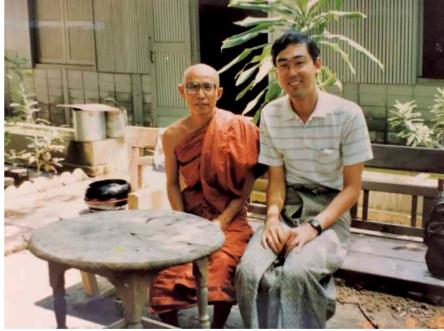
卒業後の人生を振り返ってみると、ICU からいろいろな贈り物を貰っていたんだな と実感します。元気なうちに、次の世代に何らかの形で恩送りをしたいという思いが強くなってきました。ICU育ちの遺伝子を次の世代に残し、伝えていきたいですね。

本特集にご協力いただいた24期の有志の皆さんが、本年12月2日(土)に同窓会「あら!還暦? ID80±Xリユニオン2017」の開催を企画しています。

詳しくはリユニオンWebサイトを御覧く ださい。

https://sites.google.com/view/ grouphome-icu80/





根本さん1987年9月ビルマのアマラプーラの僧院にて (Hsayadaw U Pinnyaと一緒に)



坂野さん卒業式



坂野さんニューヨーク駐在時代



坂野さんアナウンサー時代

7_People mini

ID80以外の方にもお話を聞きました。

1960年代卒業世代

―― 在学時はどんな学生でしたか?

第2男子寮生として、「よく学び、よ く遊んで」いました。熱中したのは、 Freshman English 、学生新聞づくりと卒 論の執筆でした。

- 卒業後のキャリア、転機などについ て教えてください。

まず、ジャーナリズムに職を得ましたが、

その後、やりがい、生きがい、好奇心のま ま、様々な職業を駆け巡ってきました。終 身雇用が常識だった当時、20代で転職す るなどタブーに近かったのですが、渡米と いう夢を追い、就職先の通信社を退職。そ んな決断を後押ししてくれたのは、ICUで 体感した「個性重視」の考え方だったので しょう。一度辞めても何とかなってしまう

と、後は怖くありませんでした。その後も フリーランスとして報道、広報に関わり続 け、著訳書の刊行、大学での教職や国会議 員顧問なども経験しました。振り返って、 特に自分の子供や孫の模範にできる人生と も思いませんが、私自身にとっては、誠に 充実した楽しい年月でした。



山岡 清二 YAMAOKA, Seiji (6 ID62) 社会科学科国際政治専修、在学中はEnglish Speaking Society、新聞会、軟式テニス同好会に所属

ID00世代

— 在学時はどんな学生でしたか?

学費、留学費用を賄うため、バイトと勉 強に打ち込む日々でした。幸いにして、奨 学金を二つ頂くことができ、カリフォルニ ア大学デービス校に留学させていただく こともできました。留学中の体験で印象 に残っているのは、 "Japanese culture through film という授業です。毎週、小 津安二郎や黒澤明などの監督作品を観て、 翌週にレポートを出すのですが、なかなか 思うように書けません。そこで、まずはと にかく初稿を書いて先生に相談に行き、翌 週の締め切りまでそれを繰り返して仕上げ るというようにしました。クラスメイトに は、小津監督作品やそこに描かれている時 代背景に関し、私より詳しい学生もいて、

日本人なのにいかに日本のことを知らない かを実感させられた授業でした。

夢だったオーロラを見たアラスカ旅行、 週末のサンフランシスコ、ナパバレー、ヨ セミテ公園などへの旅行も留学期間中の良 い思い出です。10カ月お世話になったホ ストファミリーとは、いまでもFacebook を通じて交流があります。

日本語の先生になるという夢を持って ICUに入ったこともあり、デービス時代に は日本語のクラスのお手伝いをさせていた だきました。帰国してからも、三鷹の国際 交流協会主催の日本語教室でボランティア として日本語を教えていました。

―― 卒業後のキャリア、転機などについ て教えてください。

現在は、総合商社で国際貢献の仕事を担 当しています。入社当時の配属は、別の 部署でしたが、2004年に会社のCSR活動 の一環としてタイで地雷除去をしていた NGOの東京事務所に2年間出向したのを きっかけに、社会貢献活動に10年近く携 わっています。青年海外協力隊から国連ボ ランティアとなった父の赴任先のアフリ カ・レソト王国で生まれたこともあり、国 際協力や社会貢献活動に興味があったので、 今の仕事を担当できていることをとても幸 運に思っています。今後、異動などもある かと思いますが、なるべく長くこの仕事を 続けたいと思っています。海外赴任やダイ バーシティを推進している部局の仕事など も経験したいですね。



安川 彩

YASUKAWA (KUROKAWA), Aya (45 ID01) 語学科日本語教授法専修、一年次に少しだけLatin Music Society、イヤーブックに所属

ID20世代

--- ICUでの学生生活はいかがですか?

個性豊かでありながら、それぞれの個を 尊重してくれる友人たち、先生方との驚き の近さ……自分のICUの志望理由の一部で はあったのですが、期待以上の環境に、本 当に良かったなと思っています。私は、受 験戦争での点数一元主義的な価値観に、強 い違和感を持っていたのですが、逆にそれ にとらわれ、苦しんでいた時期がありまし た。しかし、今では自分がとらわれていた ものに気付き、自分の思考と感情を多少整 理できるようになってきています。これも、 こうしたICUの人々との出会い、付き合い のおかげだったのかなと思っています。

今は社会起業家を応援する、あるNPO でインターンをしています。そこで触れる 情報は学内で得られるものと種類が異なっ ており、とても貴重な経験になっています。 今後も、学内・学外問わず、いろいろな方 と触れ合い、いろいろな価値観、視点を学 んでいきたいと思っています。

―― 卒業後、将来への考えなど教えてく

ださい。

私が卒業するころ、世界はさらに変化の 激しい時代に入っていくのだろうと感じて います。いまの「通常」が「異常」になる かもしれない。そのとき、自分は何を軸に して生きているのか。その軸を見付けるた めに、知らない世界をたくさん見たいと思 っています。就職した後の社会で自分は何 を軸にして生きているのだろう。そんなこ とを考えながら自分と向き合う日々がもう 少し続くのだろうと思っています。



鶴田苑美

TSURUTA, Sonomi(64 ID20) 公共政策専修希望、平和研究所、SNSS, C-Weekなど に所属

自然と遊ぶ、仲間と遊ぶ

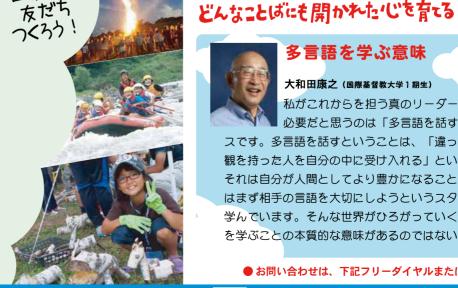
小学生~大学生年代を中心に、多言語・多世代の人々が 自然の中で活動し、国や文化の違いをこえて友情を育む プログラムです。

【国内キャンプ】(3泊4日・長野・小4~大人)

- ●雪の学校:雪の活動と多世代・多言語交流。
- ●Nature Camp: 夏山体験と多世代・多言語交流。

【海外キャンプ】(1週間前後・8月開催)

- ●アジア青少年多言語自然キャンプ&ホームステイ 中1~大人。タイでの自然体験と現地家庭でのホームステイ。
- ●アジア青年多言語合宿&ホームステイ
- 高1~大人。上海の研修施設での合宿と現地家庭でのホームステイ。



Multilingual Natural Immersion



大和田康之 (国際基督教大学 1 期生) 私がこれからを担う真のリーダーシップについて 必要だと思うのは「多言語を話す」というスタン

スです。多言語を話すということは、「違ったことば、価値 観を持った人を自分の中に受け入れる」ということです。 それは自分が人間としてより豊かになることです。ヒッポで はまず相手の言語を大切にしようというスタンスで手言語を 学んでいます。そんな世界がひろがっていくことに、ことば を学ぶことの本質的な意味があるのではないでしょうか。

● お問い合わせは、下記フリーダイヤルまたはホームページから

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-2-10 青山H&Aビル3F ヒッポ 検索

7 News

面白い本の出版、講演会、在学の活動など、 ICUに関連するさまざまなニュースをお届け。

ICUや同窓生に関わるニュースあれこれ

メールボックス廃止!? 同ボックスの一部撤去が決定

文: 水野愛子、小林智世、平澤直子(ともに本誌) 写真: 水野愛子(本誌)、図:加藤菜穂(本誌)

「集合場所の目印として使っていたのに寂し い」。本館の正面玄関に設置されていたメッセ ージボックス(メルボ)の大部分が撤去される というニュースに、波紋が広がっている。撤去 は、2017年6月16日付で学生部より、ICU Portal(教員、在学生向け学内公式サイト) に て正式に通知された。

撤去対象は2年次以降

大学学生部によると、撤去理由は「携帯端末 の普及およびSNSの浸透により、その利用が 主に学内新聞やクラブ・サークルのチラシ配布 など一部の目的に限定されしていること、およ び「本館正面玄関の扉1カ所が使用できないこ とによる防災上の問題」。

ただし、学部1年生(転編入本科生を含む)、 大学院生(初年次)、OYR、研究生は大学生活 に不慣れであるため「クラブ・サークルからの 入部勧誘、学内イベント等の情報を入手しやす い環境の提供」が必要、との判断により、これ らの学生のメルボは維持される。それ以外の学 生については、希望者の申請に基づき用意され るとのこと。2017年8月21日現在、すでに一 部撤去がなされている。

撤去までの道のり

本決定は「学生へのアンケート、ワークショ ップ、教員からの意見聴取等を実施し、さらに 検討を重ねた」結果だという。学生との話し合 いに関わった数学の鈴木寛教授に聞いてみた。

同教授によれば、2003年には既にメルボに ついての議論(「メルボ論争」とする)が行わ れていたという。だが、今回の撤去についての 通知は突然で、教職員も驚いたという。2003 年頃からの議論が積もった結果だろうが、大学 の判断だから真の理由は分からないという。た だ、学校事務の負担もあったのではないかと同 **教授はいう**。

「メルボ論争」の争点について同教授は次の ように語る。同年の冬学期、月曜日の昼休みに 学生と教授が集まる「本館トーク」というもの が開催されていたのだが、そのうち約7週間が 「メルボ論争」に費やされたというほどの大論 争であったようだ。環境保護を目的に活動して いたゴミレボリューション(当時名)という団 体は、メルボのゴミを議論の場に陳列し、紙の 無駄を強調して廃止を訴えた。一方、メルボを 使うサークルからは、「フライヤーが勧誘の方 法として一番集客率がよい」、教職過程の学生 からは、「4年次にアンケートを行うのにメル ボが必要だ」といった意見が出、存続を訴えた。 そして存続派からは、「A4が入るサイズがいい」、 「ふた付きがいい」などの新メルボ設置の提案 も出、中には設計図まで持ってくる学生団体も いたという。同教授は、学生のメルボへのこだ わりの強さを感じ、議論から10年以上たった 現在でもよく覚えているという。

在学生の反応は

本館のシンボルともいえるメルボがなくなる ことについて、在学生からはどのような反応が あるのだろうか。「メルボで連絡を取るのは、 小学生の頃のお手紙交換的な感じでよかったの に。残念だ」、「先生から時々メルボを通して連 絡を取っていたから、なくなると思うと寂し い」、という声はよく聞く。教員からの連絡と いえば、筆者も、ELA(English for Liberal Arts Program) の課題がメルボ経由で返却さ れた経験がある。たいていは、ELAオフィス 内の専用メルボから受け取るのだが、教員側の



都合による遅れなどの場合は校内メルボに返却 してくれた。またELAといえば、メルボはセ クション内のイベントにも活躍してくれた。セ クメ(セクションメイト。英語プログラムのク ラスメイトの意) の誕生日や、授業最終日に教 師に渡す寄せ書き。寄せ書きを集めるのに、教 室内だとばれてしまうため、幹事が自身のメル ボの中に封筒を用意し、そこに各々がメッセー ジカードを入れていた。ちなみに、筆者はセク メからもらった寄せ書きを今でも玄関に飾って

このように、思い出いっぱいのメルボを惜し む声がある一方で、在学生からも、環境への懸 念は指摘されている。「ほとんどの場合サーク ル等のビラが入っていて、紙の無駄の温床にな っている。その点では廃止は妥当」など(補 足:2017年7月現在、メルボ付近にはリサイ クル用ゴミ箱が設置されている)。

小見出し→ICU Portalとの重複も

ICU Portalが充実し、履修や課外活動のお 知らせが見やすくなった。だからこそ、メルボ に届く内容とPortalとが重複することもある。

W.C. w.c. **Elevator Class Room** Class Room \leftarrow West East \rightarrow Class Room Class Room

2017年8月21日現在の図

1年生の頃は1日おき程度の頻度でメルボの中 身をチェックしていた筆者も、年次が上がるに つれチェックする回数が少なくなっていった。 「3年になってからは一度もチェックしていな い」という学生もいることだし、2年次以降の メルボの廃止は現実的なものだといえる。しか しやはり、今年のICU祭やクリスマスの案内の チラシがメルボに投函されないと思うと、切な い気持ちになる。

ICU祭、名称変更? 最終的には従来通りに

文: 水野愛子、小林智世、加藤菜穂、平澤直子(ともに本誌)

学生でごった返す春学期の履修登録日(2017 年4月6日)、ICU祭実行委員会から、ICU祭の 正式名称が「鷹揚祭(おうようさい)」に変更さ れるとの発表があり、突然の告知に学内はざわ ついた。

毎年、年度の初めにあたる春の履修登録日に、 ICU祭実行委員会は在学生から署名を集めてき た。その年度のICU祭連営万針の承認を得るた 称を変更する旨が発表された。

交流を深めてきており、昨年のICU祭では「ICU た一部の同窓生にまで広がる結果となった。予 更にはICU祭実行委員会規約の改正手続きが必

生ゴヨウタシ横丁」という、吉祥寺~東小金井、 調布など近隣のお店が出店またはお店の商品を 委託販売するエリアを設けた。今年はこの試み を拡大すべく動いていたが、その中で地域の方 から「英語の名称に距離を感じる」との意見が あり、ICU祭実行委員会はICU祭の正式名称を 日本語名称の「鷹揚祭」に変更したのだった。

めだ。今年はこの署名に併せ、ICU祭の正式名とへの驚きや、「ICU祭」という名称がなくなたことが明るみに出たとのこと。そして協議の事、慣れ親しんだ「ICU祭」という名称がなく るのかという不安の声も上がった。また驚きは 結果、「正式名称は『ICU祭(英語名称:ICU ならず、ほっとしている同窓生も多いのではな ICU祭実行委員会は年々、大学周辺地域との 学内にとどまらず、SNS等でその情報を知っ Festival 2017)』であること」「正式名称の変 いだろうか。

想以上の反響を受けてICU祭実行委員会が説明 したところによれば、それまで同委員会は、 「ICU祭は通称であり、正式名称は毎年同委員 会が決定する『ICU Festival 2016』等であ る」と考えていたため、今年の正式名称は「鷹 揚祭」に決定、発表した。しかし、改めて大学 側と協議したところ、大学側と委員会との間で しかし、学生からは、事前説明がなかったこ 正式名称に対する共通認識が持たれていなかっ 要となること」を両者間で確認したとのことだ った。

正式な手続きを経ていない今回の名称変更は 無効となるため、委員会は「鷹揚祭」という名 称を撤回。今年度のICU祭は、例年通り「ICU 祭(日本語名) /ICU Festival 2017(英語名) | という名称で開催することとなった。学内のみ ならす、同窓生にまで反響がおよんだこの出来

新学生寮への寄付で、共用スペースの名付け親に

文: 岡本早織、小林智世(ともに本誌)

本誌で度々触れているキャンパス・グラ ンド・デザインの一環で、2017年4月に の「名付け親」になれるのをご存知だろう か。大学は高額寄付者に対し、新学生寮の

共用スペースの命名権を贈与するとし、ラ ウンジを400万円、共同リビング・ダイニ 誕生した新学生寮。この寮の共用スペース ングを1,000万円、中庭を1,500万円でそ の対象としている。なお、和室の命名権は、 で、教育施設として適切であること(例: 300万円の寄付をした方がすでに取得して

いる。また、寄付者の名前と命名したスペ ースの名称は顕彰板に記載され、1階に飾 られる。名称の条件は、商標・商号以外 あなぐまラウンジ)。命名できるスペース

の最新情報は、フレンズ・オブ・ICU事務 局(TEL: 0422-33-3041、E-mail: foi@ icu.ac.jp) までお問い合わせを。

R-Weeksで多様性を考える

文:水野愛子、小林智世(ともに本誌)

ICUで近年行われている「R-Week(s)」をご 存知だろうか。2013年に始まったこの催しは、 ICUジェンダー研究センター(CGS) が企画。 開催の目的は、LGBTの当事者が抱えてきた悩 みを共有するとともに、当事者のみならず在学 生の誰もがジェンダー・セクシュアリティを知 るきっかけを作ること。LGBTなどに対する差 別の撤廃を求める運動のシンボルに多様性を象 徴する虹のモチーフが使われることから、 「Rainbow Week Project」、 略 し て 「R-Week」という名称となった。期間中は、 ジェンダー・セクシュアリティにまつわるワー クショップや講演会が開催される。CGSは、 2004年に設置されたジェンダー・セクシュア リティについての研究施設である一方、LGBT をはじめとするジェンダーに悩む学生に対する 学生生活の支援にも携わっており、後者の活動 の一環としてR-Weekを立ち上げた。

知るきっかけを作るという点では、キリスト 教に親しむ期間として考案されたC-Weekと 共通する点があるといえよう。C-Weekは毎 年5月に開催されるが、その翌月にR-Weekが 開催される運びとなったことに、アップデート されつつ受け継がれるICUらしさが感じられる。 5回目に当たる今年は、期間が拡張されたこ とを受け、名称が「R-Weeks」に改められた。 テーマは「誰もが安心して生活できるキャンパ スを | 。5月29 日から6月11日までの2週間に わたりテーマに沿った各種イベントが行われた。 以下それぞれのイベントについて、詳しく見て いきたい。

まずはLGBTの当事者に向けたイベント「ふ わカフェ」だ。43回目となるCGSの定番イベ ントである。CGSにて毎月開催されており、 コンセプトはLGBTの当事者が「気楽に訪れ気



Rainbow Reunion開催時のアラムナイハウス



R-Weeksパネル展「ふわりんといっしょ」の一部

軽にしゃべれるカフェイベント」。今回 (R-weeksでの) お題は「コミュニティとコミ ュニケーション」。学校やサークルをはじめと したコミュニティの中で抱いた違和感や気付き を共有することを狙いとしている。R-Weeks の一貫として開催することで、ジェンダー・セ クシュアリティの悩みを一人で抱え込んでいる 学生に、訪れやすい環境を提供しているのだろ

また、「やれることリスト at University」 というテーマのもと、学生が悩みと、それに対 してできることを一緒に書き出していくワーク ショップも開催された。昨年集まった意見は、 「ジェンダー・セクシュアリティとキャンパスライ フ Vol.02やれることリスト 108 at University」 にまとめられ、9月に発行された。同冊子は、 「大学の就学・就業環境の改善を手助けするた めの『ツール』」として制作された。編著およ び発行はいずれもCGS。CGSは発行の狙いを 「教職員や学生、卒業生、地域の人々など、大 学に関わる全ての人々が共に考え、行動するた めのアイディアの一例」を提供することとして いる。

一方、アクティビストや研究者のジェンダ ー・セクシュアリティ観に触れる場も設けられ た。本館にて、2種類の公開レクチャーが開か れたのだ。ひとつは、トランスジェンダーの当 事者・えんどうまめた氏によるレクチャー「個 人的なことは政治的なこと―草の根アクティビ ズムが社会を変える」。全国各地で啓発活動を 行うえんどう氏は、自身の経験を通し、自ら行 動する大切さを語った。

もうひとつは、文化人類学者で明治学院大学 国際平和研究所研究員である砂川秀樹氏による レクチャー「セクシュアリティの文化人類学と アクティビズムー多様な世界を生きる私たち」。 砂川氏は、ジェンダー・セクシュアリティにつ いて扱った民俗誌を執筆した経験から、学問と アクティビズムの関連性について講演した。

そして今年のR-Weeksの締めくくりは、アラ ムナイハウスで行われた「Rainbow Reunion」 だった。LGBTの同窓生と在学生、それにその サポーターらが交流できるイベントだ。学生に とっては、先輩から様々な経験談を聞くととも に、多様性に関して意見を交換できる貴重な機 会だ。ジェンダー・セクシュアリティが、学生

時代だけでなく卒業後にもいかに大切なテーマ であるかが伝わってくる。

学生のR-Weeksへの認知度は高まりつつあ る。「Facebookでイベントを友達が『いいね』 したのをきっかけに知った」という学生も。ま た、「イベントには直接行けてないけど、 R-Weeksで貼られる展示物は毎年見ていた」 という人もいた。

さらに、「今年はセクシュアルマイノリティ 向けのフロアがある新々寮もできたから、例年 より意識してイベントページをチェックした」 という声も聞かれた。新々寮には、「性別を問 わないフロアを設置」、「大浴場での入浴を避け たい学生のため、各フロアに個室のシャワーブ ースも設置」されたのだが、そのおかげで R-Weeksへの関心度が高まったようだ。

また、卒業式に着用するガウンにも変化があ ったのはご存知だろうか。2016年春季卒業式 から、学部卒業生が着用するガウンが、男女共 通で襟なしのものとなったのだ(大学院生用は もともと男女共通)。ジェンダー・セクシュア リティというテーマに、大学そして学生たちが どう向き合っていくのか、今後も注目したい。

入試と語学プログラム、より多様な学生に対応すべく改革

文: 岡本早織(本誌)

ICUの入試制度が変わった。2017年 9月以降に入学を希望する受験生のうち、 「母語が必ずしも日本語でも英語でもない、 多様な学習背景を持ち、自己の文化的背景 を日本と世界で活かす志のある」生徒を対 象に、「4月入学国際学生入学試験」およ び「9月入学国際学生書類選考」が導入さ れたのだ。EJU(日本留学試験) の導入な ど、これまで以上に生徒の学習背景や語学

運用能力に応じた出願と選考が可能となる。 出願資格は、「国籍を問わず外国の教育制 度のもとで高等学校最終学年を含み継続し て6年以上教育を受けた者または受ける見 込みの者」、および「当該国の学校教育に おける通常の12年以上の課程を修了した 者および修了見込みの者」。

4月入学希望者は、日本語での書類選考 に加え、日英両語による面接を受ける必要 がある。詳細については、大学のWebサ

また、ICUの語学プログラムも、変わろ うとしている。SGU(スーパーグローバル 大学創成支援)の取り組みの一環として、 4月入学生はELA(リベラルアーツ英語プ ログラム)、9月入学生はJLP(日本語教育 プログラム)を必修とする、という従来の 枠組を緩やかにして、学生が入学前の教育 背景や語学運用能力に応じて語学プログラ ムを履修できることを目指して整備してい るとのこと。

実際に、ELAの上級クラスでは、日本 語より英語の方が得意な学生もいるため、 学生の語学ニーズによりきめ細かにこたえ られる画期的な改革だといえる。

ICUは、学生の多様性を更に受け入れる べく、動き出している。

腰痛・肩こり・頭痛を改善したいあなたへ

ICU卒業生の佃隆(44期ID00)とパートナーの佃美香が24年間運営しており、毎年1 万人以上の方が来院されています。

三鷹駅南口徒歩1分の当院には、ICU関係者の方が来院者の4割を占めています。 当院では、つくだ式検査法で分析し、痛みの原因を特定します。独自のつくだ式カイ ロプラクティックケア、「『姿勢の魔法』シャキーン!」メソッド、パーソナルトレーニング エクササイズで症状改善だけでなく、姿勢矯正、ひいてはあなたの理想の暮らしを 送るための健康サポートをします。あなたのお役に立てましたら幸いです。

ファミリーカイロプラクティック三鷹院

〒181-0013 東京都三鷹市下連雀3-24-7 平嶺ビル301号室



100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100



この度、当院院長佣降は2016年3月に 1日3回で、ねこ背がよくなる「姿勢の魔法」シャキーン!を上梓いたしました。







7_Major

全31の中から気になるメジャーを紹介

第14回 ジェンダー・セクシュアリティ研究 生駒夏美教授



生駒 夏美 IKOMA, Natsumi

2002年、イギリス・ダラム大学博士課程 学位取得。2003年、ICU着任。2010年9月 ~2012年3月に文学研究デパートメント長 を務める。2014年、ジェンダー研究センタ ーのセンター長に就任。学生時代にイギリス の女性作家の小説でフェミニズムの思想と出 会ったことで、ジェンダー、およびフェミニ ズム研究者の道を志す。専門分野はジェンダ ー、ヨーロッパ文学、文学一般。

ダイバーシティ推進が掲げられる社会において、「多様性を受け入れる」とはどういうことなのか。 そもそも「受け入れる」という姿勢こそが差別かもしれない

----ICUには、学際性と双方向的な学びを重んじる気風を活かし、多様性と向き合うメジャーがあります。 ジェンダー・セクシュアリティ研究メジャーの生駒夏美教授に、メジャーの現状について語っていただきました。

文・写真: 水野愛子、小林智世(ともに本誌)

ジェンダー・セクシュアリティの 観点から世界を捉え直す

ジェンダー・セクシュアリティ研究メジャーの使命は、学生たちにジェンダー(社会的・文化的に形成される男女の差異)・セクシュアリティ(性のありよう)という視点を提示することで、社会における男女二元論的・異性愛中心主義的な偏りを意識できる人間を育てることです。また、学生たちがさらに視野を広げ、あらゆる差別や偏見に対して批判的なまなざしを持てるようになることも目指しています。

ジェンダー・セクシュアリティ研究の根本にあるのは、「差別の社会構築性」という概念です。これは、差別は身体機能や同性への恋愛感情、心の性と体の性の乖離(かいり)といった性質そのものではなく、そういった性質を「劣っている」と見なす社会によって構築される、という考え方です。社会や自分自身の中にある優劣の基準や偏見に敏感になることで、多様性を尊重する社会への筋道を模索するのが、このメジャーにおける学びの根幹です。

最近の日本社会は、寛容になってきたようでいて、実際はまだまだ発展途上です。セクシャルマイノリティへの理解という点では、「LGBT (Lesbian, Gay, Bisexual, Transgender)」という言葉が広がっている半面、その意味を「異性愛者

ではない人」だと誤解している人がまだいますし、Transgender(心と体の性の不一致)への理解もまだ浸透していません。ICUで授業をしていても、自身の中にある「マジョリティ(=優)」「マイノリティ(=劣)」という感覚を問うことなく、流行に乗って「当事者ではないけれど分かってあげよう」という態度をとる学生に会うことがあります。私の授業では、そういう学生がマジョリティとマイノリティという二項対立的な価値観そのものを変えられるような指導をしています。

コースの最初の頃には、たいてい抵抗や 反発が起こります。特に男子学生は、自分 が男性であることを非難されていると感じ る傾向にあります。既存のジェンダー規範 に基づいた思考から脱却するのは、容易な ことではありませんから。

また、授業には、中学校・高校と辛い思いをしてきたセクシャルマイノリティの学生も出席していることがよくあります。当事者としての実感を授業で語ってくれる学生もいる一方で、カミングアウトしない学生もいますが、公表するかどうかは、完全に自己決定権だと思っています。

ICUらしい幅広い切り口を

ジェンダー・セクシュアリティ研究メジャーを選択する学生は、まず「ジェンダー 研究へのアプローチ」という基礎科目の授 業を履修します。授業は専門分野の異なる 複数の教員によって行われ、外部からゲストスピーカー(アクティビストの方など) を迎える回もあります。様々な視点に触れることで、学生たちがジェンダーやセクシュアリティを多面的に捉えられるようになるのが狙いです。

ジェンダーやセクシュアリティを研究するには、社会制度や小説の中といった、それが現れている場所の中から研究対象を選ぶ必要があります。こうした性質上、このメジャーの卒論生は基本的に、文学や社会学など、専修分野をもう一つ持つことになります。様々な分野を幅広く学べるICUは、恵まれた研究環境といえるでしょう。

身近な人の人権を大切に

ジェンダー概念の認知度は国によってばらつきがあります。あるロシアからの留学生は「自分の国にはジェンダーという概念がなかった」と驚いていました。一方で、欧米からの留学生に「日本では、フェミニズムと言うと女性でさえ嫌な顔をする人が多い」と指摘されたこともあります。

ICUで多様性を尊重することを学んでも、社会に出れば無理解な環境に絶望することもあります。マイノリティや女性は特にそうでしょう。そんな時は共に学んだ仲間を思い出し、辛ければ相談に来てほしいと思います。一人では解決できなくても、誰か

と問題を共有することで状況が変わることもありますから。大学のジェンダー研究センター(CGS)は、マイノリティの相談窓口や交流の場、卒業生と話せる "Rainbow Reunion" などを運営しており、悩みと向き合える体制をつくっています。ぜひ利用してほしいですね。

世界貢献という大きな夢も大切ですが、 このメジャーの卒業生には、隣の人の人権 を大切にできるようになってほしいです。

ジェンダー・セクシュアリティ研究 メジャーのデータ

●開講されているクラス (一部、2017年度現在) ジェンダー研究へのアプローチ 教育社会学

宗教とジェンダー

ジェンダー・セクシュアリティと批評理論 国際人権法

文学理論とフェミニズムII 異文化コミュニケーション など

●担当教員(2017年度現在)

アムール=マヤール, オリビエ

AMMOUR-MAYEUR, Olivier

新垣 修 ARAKAKI, Osamu 有元 健 ARIMOTO, Takeshi 池田 理知子 IKEDA, Richiko 生駒 夏美 IKOMA, Natsumi

加藤 恵津子 KATO, Etsuko 森木 美恵 MORIKI, Yoshie

西村 幹子 NISHIMURA, Mikiko 高松 香奈 TAKAMATSU, Kana

APeople 岡朗 (27 ID83) 岡ツアーズ 代表

各ジャンルで活躍の同窓生を紹介

1961年生まれ。在学中、交換留学でペンシルベニア大に留学。1984年卒業後、メーカー、金融機関勤務を経て米エール大MBA取得。2005年岡ツアーズ設立。 2006年第2種旅行業登録、旅行業務取扱管理者資格取得、本格的営業スタート。

2017年はすでに終了した分も含めて15回のツアーを予定している。

OKA, Akira

訪日外国人向け自転車観光ツアーで 日本の魅力をアピール

インバウンド(訪日外国人旅行者)は政府の後押しもあって急成長を続け、 2013年に1000万人の大台乗せ、2016年にはついに2000万人を突破した。 数の増加に伴い観光のスタイルも多様化している。

岡 朗さんは、欧米では市場が確立しているが日本ではまだ少ない 外国人向けサイクリングツアーのパイオニア。

ひと味もふた味も違う日本体験を提供してきた岡さんのお話を伺った。

文:新村敏雄(本誌) 写真: 岡ツアーズ提供

岡さんは東京・武蔵野市のご出身。「自転車での初めての遠出? 中学生の時、友達と行ったよみうりランドかな。楽しくて、もっといい自転車が欲しくなり、お年玉やこづかいを貯めて部品をいろいろ買い集め、自分で組み立てました。2年ぐらいかかったかな」。

岡さんが中学生のころは、もちろんインターネットなどなかった時代。「サイクルスポーツ」などの雑誌で情報を集め、フランス製のブレーキや変速機、フレームは中古を、とパーツ選びから始めたといい、中学生の趣味としては相当ハイレベルだ。ただ、「あのころはサイクリングとか自転車の自作をしていると『変わり者』『オタク』とみられるのでは、と思っていました」とのこと。

大好きな自転車に 乗れなかった時期も

高校とICU在学中は部活動(硬式テニス)が忙しくてあまり乗れず、本格的に再開できたのは大学卒業後。「就職した会社にサイクリング部出身の同期がいて、サイクリングを再開しました」。その後、MBAを取得するために自費留学した米エール大学では「学費や生活費がかかるから自転車を買う余裕もなく、大学のある街の治安も悪かったし、何より勉強が大変で」やはりあまりペダルを踏む時間はなかった。好きなことを継続するのは容易ではないということか。

エール大学卒業後はアメリカで就職したが、「日本で再就職することも考えて」35歳の時に帰国。日系大手ベンチャーキャピタルに職を得て、「やっと好みの自転車を買う余裕もできました」と笑う。ロンドンに4年間勤務した時期には、夏休みのたびにイギリス、フランス、ベルギーなど欧州各地を自転車で旅行したという。この時偶然出会ったアメリカ人のご夫婦から「自転車ツアー」という観光ビジネスがあることを知り、「日本にもそういうツアーをするには良い環境がある、とは感じたものの、その時はまさか後に自分でやるとは考えもしなかった」そうだ。

起業を決心させた友人の一言

転機はロンドンから帰国後に訪れた。子供が生まれたのに仕事があまりに忙しく、 漠然と転職を考えていた時に、ビジネスス クール時代のアメリカ人の友人が日本に遊 びに来た。鎌倉を案内しながら彼に「今の 仕事はあまりに大変なので、訪日外国人向 けにハイキングツアー会社でもやろうか な」と半ば冗談のつもりで口にしたところ、 彼は「やるなら自転車ツアー会社の方がい いよ」と言ってくれたそうだ。

「その時、すべてが一つにつながったと感じました。昔からサイクリング旅行が好きで、アメリカやイギリスでの生活が長く英語に抵抗はないし、海外の自転車ツアーの実情も自分の目で見ていましたから」。 勤務先の仕事では起業する人を間近に見て いたので、「起業」も特別なことではなかった。

早速準備に着手し、企画旅行会社設立に必要となる旅行業務取扱管理者と通訳案内士の2つの資格を取る勉強を始めたが、片手間ではとても無理で、ベンチャーキャピタルを退社すると決めた。最大の難関は奥様の反対意見。激務だが経済的に安定した生活を投げうち一人で会社を始めたい、と言われたらそれは反対するでしょう。「事業計画書を提出させられました(笑)」。

なんとか奥様を説得し旅行業管理者と通 訳案内士の資格も取れ、2006年から営業 が始まった。その1年はいわば「トライア ル」期間で、本格化したのは翌2007年か ら。「この年は佐渡、会津、伊豆の3地域 を企画しました。その中でも佐渡は自分の 企画にお客様がついた最初の案件で、とて も嬉しかった。お客様はカナダからいらし た4人家族でした」。

自転車でしか味わえない ツアーの魅力

「自転車ツアーの魅力? 何と言っても、風を感じながら走ればその土地の自然を全身で受け止めて味わえるし、人との出会いも増えますから」と岡さん。徐々にリピーターも増えているそうだが、それもこのツアーの魅力にはまってしまうからだろう。

現在は北海道、能登・金沢・京都、滋賀・京都・奈良、広島、四国などもメニューに加わり、参加者の体力・経験に合わせ



阿蘇にてツアー参加者と(前列が岡さん)

てツアーのレベルも3段階用意されている。 年間のツアー催行は8月を除き毎月、多い 月は4回にも及ぶ。岡ツアーズでは、走る だけでなく日本文化を体験してもらうメニューも盛り込んでいるが、「文化への関心 レベルは個人差があるし、速く走りたい人 もいればゆっくり行きたい人もいて、全体 の調和は時に大変な事もあります」という。

お客様の確保が安定してきた目下の課題は、参加者が多いときのツアーガイドやサポート(車で伴走する人)の確保だという。「開業当初は実の叔父に助けてもらい、今年の5月にインドネシアから19人のグループを案内した時は、実業団での自転車経験者に手伝ってもらいました」。

文字通り「体が資本」の仕事だが、「体力の衰えを感じることはあります」。一方で、日本での自転車ツアーはまだ認知度を高める余地が大いにある。その魅力を一人でも多くの海外の方に知っていただくために、就寝前の体幹トレーニングなども欠かさない岡さんだ。

日本文化を世界と後世へ



平成28年6月24日 大学のご理解とご協力により本学創立 以来 初の能楽「経政 つねまさ」がDMホールでおこなわれ 本年も7月8日「羽衣はごろも」が実現しました。シテは金春 流 (こんぱる) 職分中村一路で、7期卒中村勝の長男です。曾 て本学で長く教鞭をとられた古典言語学の神田盾夫先生の父君 乃武先生の実方松井家は、徳川家光付の御小姓で幕末まで総て の能役者の取り締まりでした。盾夫先生の奥様多恵子さま所縁 の御殿場の神田記念館には能面「小面」が掛けられています。

以下 お能につきご希望でも御座いましたら 中村 勝 まで御一報下さい。 **イ**. 能の楽しみ方講話など **ロ**. 初歩的な謠・仕舞の稽古 **ハ**. 能のプロデュース

連絡先: 〒860-0046 熊本市横手3-13-14 中村 勝 (7期) **☎・**Fax: 096-352-7801 Mail: higo-nakamura @tea.odn.ne.jp ホームページ: 金春流肥後中村家

肥後高砂やの五色もなか



https://higo-takasagoya.jimdo.com/

お問合せ・注文先: 肥後高砂や

〒860-0023 熊本市中央区河原町2番 **お・**fax: 096-352-5339 Mail: higo-nakamura @tea.odn.ne.jp

大納言・芋栗・胡麻・鶯 150円 胡桃 180円

アイスもなか(店頭限定) 200円

五色もなか8ケ箱入り(大納言2、芋栗2、胡桃2、胡麻1、鶯1) ¥1,560- 送料別

冷暗所で保存し8日以内にお召し上がりください

熊本大地震 御礼と復興へ

平成 28 年 4 月 14 日・16 日熊本大地震では、同窓生の方々より暖かいお見舞いとご支援を賜り、衷心より御礼を申し上げます。

ホームページ 肥後高砂や 7期 中村 勝

Bilingualism Declaration of the ICU Alumni News

ICU Alumni News、バイリンガル宣言

Alumni Newsに求められる「バイリンガル」とは何であろうか? 単純に記事を日本語と英語で併記することであろうか? ICUで学んだということは、当然、日英両語でアカデミックレベルのコミュニケーションが可能。あるいは、可能であることを前提としているはず。 ということは、単純に「翻訳」という意味でのバイリンガルであるはずがない。

ICUが献学以来その教育の成果として求めている人間像は、多様な価値を認め、理解し、自分の中で昇華できる人間ということ。

その実現のために必要最低限の要素として、日英両語でのコミュニケーション能力が求められているに過ぎない。

むしろ、Alumni Newsの記事に求められるバイリンガルとは、多様な価値観、ダイバーシティーを反映することにこそあるはずだ。

ICUでの授業が、単純にまったく同じ内容を日英両語で開講しているのではないように、Alumni Newsにおいても 多様な価値観を反映させ、

読者に気付きや、葛藤、そして相互理解につながる場を提供することこそAlumni Newsの使命だと考える。

What sort of bilingualism should we seek for ICU's Alumni News? Is it just to print the articles in English and Japanese? Having studied at ICU, you should be capable of communicating at an academic level in both tongues.

Or, one assumes that you can. Which means that this bilingualism is not just a translation from the original.

Ever since the founding of ICU, the pedagogical ideal is to educate the students into people who can appreciate and understand a diversity of values and elevate that to a sublime height in themselves.

The essential minimum to achieve this goal is communication ability in the two languages.

The bilingualism required for the Alumni News should reflect diversity and a pluralism of value standards.

Just as the content of the classes taught in English and Japanese at ICU is not identical,

it is our belief that the mission of Alumni News is to reflect a diversity of views, send brainwaves to the readers and provide a forum stimulating debate and mutual understanding.

Request for Contributions in English

Alumni News invites all readers, be they individuals or groups such as chapters, societies, firms, to send in any ideas and articles written in English.

Students, OYR, current or former school personnel, JICUF or anyone with the slightest connection to ICU are all welcome to apply. Please contact the Alumni Association offices by email at aaoffice@icualumni.com.

Alumni News editors will screen such contributions for publication in the Alumni News 128th (scheduled for February 2018) or later issues.

Thanks スペジャパ!



ism declaration of the alumni news, let me write this teeny-weeny column in English. Unlike students who joined ICU in April from Japanese high schools, I came to the campus in September from an international extablishment in Yokohama. While my father was stationed for 5 years in London, I was educated in a state-run grammar and then secondary school. Although Japanese language classes were taught on Saturday mornings in central London, the bullying by the new kids on the block repulsed me after six months or so. So, by the time our family returned to Japan. I barely comprehended the Japanese spoken by my parents. The middle school headmaster who interviewed me said it would take three years to prep me for the high school entrance exams. With no Japanese schools catering for returnees then, the only option was to attend an Catholic school run by nuns. On entering ICU, the Septermer kids were batch-tested for their Japanese language ability. I fell somewhere in the middle between two-year Intensive Japanese and going scot-free. The Special Japanese lessons were awaiting. During a one year, three term period, I had to learn all the toyo kanji, nearly 2000 of them. The first term was easy: primary school one to three kanjis. The second term was four to six. But the last and third term was tough; hammering into my grey cells the characters that a middle school student would take three years to learn. But, wow and behold, by the end of the year, I was able to read newspapers and textbooks. Working as an interpreter, some of the clients would complain that my Japanese was not up to standard, but that ended in about 5 years. Thanks スペジ ャパ for changing my life! (Ritsu Suzuki, 23 ID79)

My First Bilingual Zine

To associate myself with the Alumni News Bilingualism declaration, I'd like to report about my small step to become a weekend bilingual cross-border communicator, while working weekdays at an office in Tokyo.

The catalyst was a small flier I picked up in a movie theater last winter, announcing a Tokyo Zine event in May 2017. Having learned about them in a fashion publication article, I knew that zines are small-circulation magazines or fanzines, usually produced by professional or semi-professional artists. However, this flier stated that by paying \12000 anyone could exhibit their creation at the event. Also, the zines of the first one hundred to enroll would be co-exhibited in Los Angeles, a week after Tokyo.

O.K. I' Il join – the idea of managing the whole zine fascinated me. I was inspired to write up a bilingual zine in English and Japanese, focusing on aspects of Japan, beyond the scope of "Cool Japan."

I spent my Saturdays, Sundays and the whole of May golden week to complete

my "Not-So-Cool Japan." Exhibiting at the two Zine events and making public my thoughts in the two languages was exciting. The Instagram posts featured the booth showing my Zine in L.A. It was exhilarating to feel that my ideas had blasted through fences and borders

I believe now that it is possible to expand one's world view not only by working overseas or at a multi-national corporation, but by also searching for invitations to the great unknown. The English skills and wide field of vision fostered in me at ICU and the editing work for Alumni News have given me courage to accept such challenges. (Tomoyo Kobayashi, 52 ID08)

"Not-so-Cool Japan" zine is available until November for ¥800 at Mount Tokyo, Meguro-ku, Tokyo or at Mount Zine web shop. https://zine.mount.co.jp/97



今号の見開き: 新井 卓 (46 ID02) ARAI, Takashi

上野町から掘り出された腕時計/長崎原爆資料館のための多焦点モニュメント、マケット (「EXPOSED IN A HUNDRED SUNS/百の太陽に灼かれて」シリーズより)2014 ダゲレオタイプ(銀板写真) 50x50cm 愛知県美術館蔵

2010年から核の遺物を〈Monument〉 として撮影し続けています。長崎原爆資料 館で被爆した腕時計を撮影したときのこと です。実物は3センチくらいの小さなもの で、マクロレンズを通して撮影していたの 時計の針がエナメル塗料のようなもので書 き足されている。しかも針が指しているの 今となっては、それがどのような経緯で書 き込まれたのか誰もわからないのですが、 オリジナルの「モノ」に、手を加えた 人の意図が重ね合わされることによっ て、人はどのような条件でその「モノ」を 〈Monument〉として意味づけをするのか が、時間が書き込まれた時計を撮影するこ "Monument"という単語は「記念碑」など と訳されますが、実は定義が難しい。例え ば広島の原爆ドームも、原爆死没者慰霊碑 も記念碑ですよね。前者は被爆してできた もの、後者は原爆投下後に建てられた慰霊

ですが、よく見るとアレ? と思いました。 は、長崎に原爆が落ちた11時2分なんです。 とで透けて見えてきたような気がしました。 てくくるには意味が違うのではないかと。 僕の考える〈Monument〉はモノとしての 表面が記憶を担保するもの。「モノ」だけ が残ったときに、それに伴う記憶を再生す ることが可能かどうかがその定義だと考え

の場です。この二つを "Monument" とし

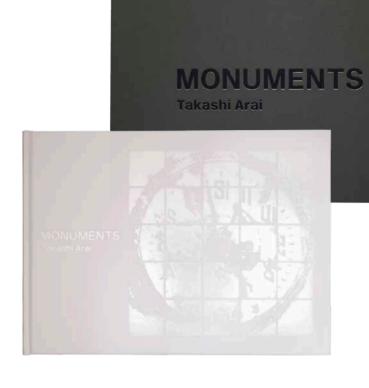
僕は船乗りになりたかったんです。外国 航路の船長さん。大学受験では、ICUと東 京商船大学(現東京海洋大学)に出願しま した。海洋生物学もいいかなと、ICUに入 学後はNSを専攻しました。周りは英語が できる人たちばかりでELPのクラスは居心 地が悪かった。でもD館に行って、美術部 に行くとみんなダメな感じで(笑)ホッと しましたね。D館の暗室なども使わせても らっていました。3年生のときにNSから 転科しようとしたのですが、うまくいかな くて大学を中退しました。その後は、仕事 をしながら夜間の写真学校に通い、2006 年に写真家として独立しました。

ダゲレオタイプという手法で撮影をして います。ダゲレオタイプは、写真の黎明期 の撮影手法で、よく磨いた銀板を薬品ガス にさらし、長時間露光で撮影、水銀で現像 する方法です。基本的にダゲレオタイプで 撮った写真は焼き増しすることができませ

ん。ただし現像したままの状態で、少なく とも180年持つと言われています。写真と いうよりは「モノ」に近い。写真を撮ると いうよりは記憶装置として遺すというスタ ンスでいます。50~60年代の反核芸術に 興味を持った時、通っていた東京都立第五 福竜丸展示館の館長さんから、これで何か やってみたらと「死の灰」を預かりました。 翌年の元旦から1日1枚ダゲレオタイプを 撮ると決めていて、しばらく放置していた 死の灰を持ち出して公園で撮影しようとし たときに、大きくグラリと地面が揺れまし た。偶然にも、東日本大震災の日でした。 原発の問題は僕が生きている間に解決する ものではない。もっと長い目で見ていかな いといけないのです。そして僕は写真や文

章を通して、後世にそれを伝えていかなけ ればならないと考えています。

2015年には一連の作品をまとめた写真 集『MONUMENTS』(PGI) を刊行しま した。マットな質感の重厚な箱の中に、真 っ白な表紙の写真集が入っています。な るべく「モノ」としての写真集になるよ うにこだわって作りました。これも100年、 200年と残っていってほしい。2016年に は、同写真集で木村伊兵衛写真賞を受賞し ました。この本の編集は、ICU祭のときに 出会った山田兼太郎くん(47 ID03) に頼 みました。仕事でICUの卒業生に会うこと も 時々あります。今日は久しぶりにICU の記憶が呼び起こされて、頭がショートし そうです (笑)。





新井卓

ARAI. Takashi

1978年神奈川県川崎市生まれ。写真家 /美術家。写真の原点を探るうちダゲレ オタイプを知り、試行錯誤ののち同技法 を習得。近年は映像制作、執筆のほか、 ゲティー美術館、北京精華大学をはじめ 内外の美術館・大学等で公開講義を行う など多岐にわたる活動を展開。2016年 には第41回木村伊兵衛写真賞、日本写 直協会賞新人賞、神奈川文化賞未来賞を 続けて受賞。単著に『MONUMENTS』 (PGI 2015)『世界のともだち ドイツ』 (偕成社 2016) などがある。

写真展

- 「The Power of Images」ボローニャ The MAST Foundation 2017年5月3日~9月24日
- ●「PHOTOFAIRS 上海 2017」上海国際展示場 2017年9月8日~ 10日
- ●「Paris Photo 2017」パリ グラン・パレ 2017年11月9日~ 12日

連載

- Web版『3.11を心に刻んで』(岩波書店)
- ●Web版『水牛のように』
- ●『現代詩手帖』表紙作品+シリーズ・エッセイ「陽の光あるうちに」(思潮社)



吉住歯科矯正クリニック

お問い合わせ·ご相談、初回無料カウンセリングのご予約 **(0422-48-3365**

1976 年に吉祥寺で初めての矯正専門クリニックとして開業し、4000人を超える患者さまの笑顔に携わってきましたが、2016 年に 大規模リニューアルを行い、予防歯科と一般歯科も行うことになりました。キレイな歯ならびを軸にお口全体の予防管理をする。 日本では新しいタイプのクリニックです。院長はICU卒業後、歯科大学に入り直し歯科医師となり、日本矯正歯科学会の認定医を取得。 今ではたくさんの ICU 生に通っていただいております。国際社会で活躍する上では「キレイな歯ならび」は必須条件ともいえます。 欧米では「キレイな歯ならび」が社会的ステータスであるとも言われていますが、当クリニックでは見た目だけでなく、正しい機能的 な噛み合わせを目標にしています。機能的な噛み合わせは、日常生活において食事が食べやすくなったり喋りやすくなるばかりでなく、 むし歯は歯周病の予防にもなり、結果として審美性や QOL (Quality of Life) の向上につながります。

「キレイな歯ならび」で、これから国際社会で活躍するであろう ICU 生ならびにそのご家族の一助になれれば光栄です。 歯ならびや歯のお悩みは是非当クリニックにご相談ください!(むし歯や検診のご予約も承っております)





副院長 吉住 未央子 東京歯科大学歯学部卒業 同大学病院臨床研修課程修了 同大学病院歯周病学講座卒後 研修課程修了 日本歯周病学会認定医



国際其格教士学教養学部本業 東京歯科大学歯学部卒業 同大学病院臨床研修課程修了 同大学歯科矯正学講座卒後 研修課程修了 日本矯正歯科学会認定医

|診療科目

歯科、小児歯科、矯正歯科、歯科口腔外科

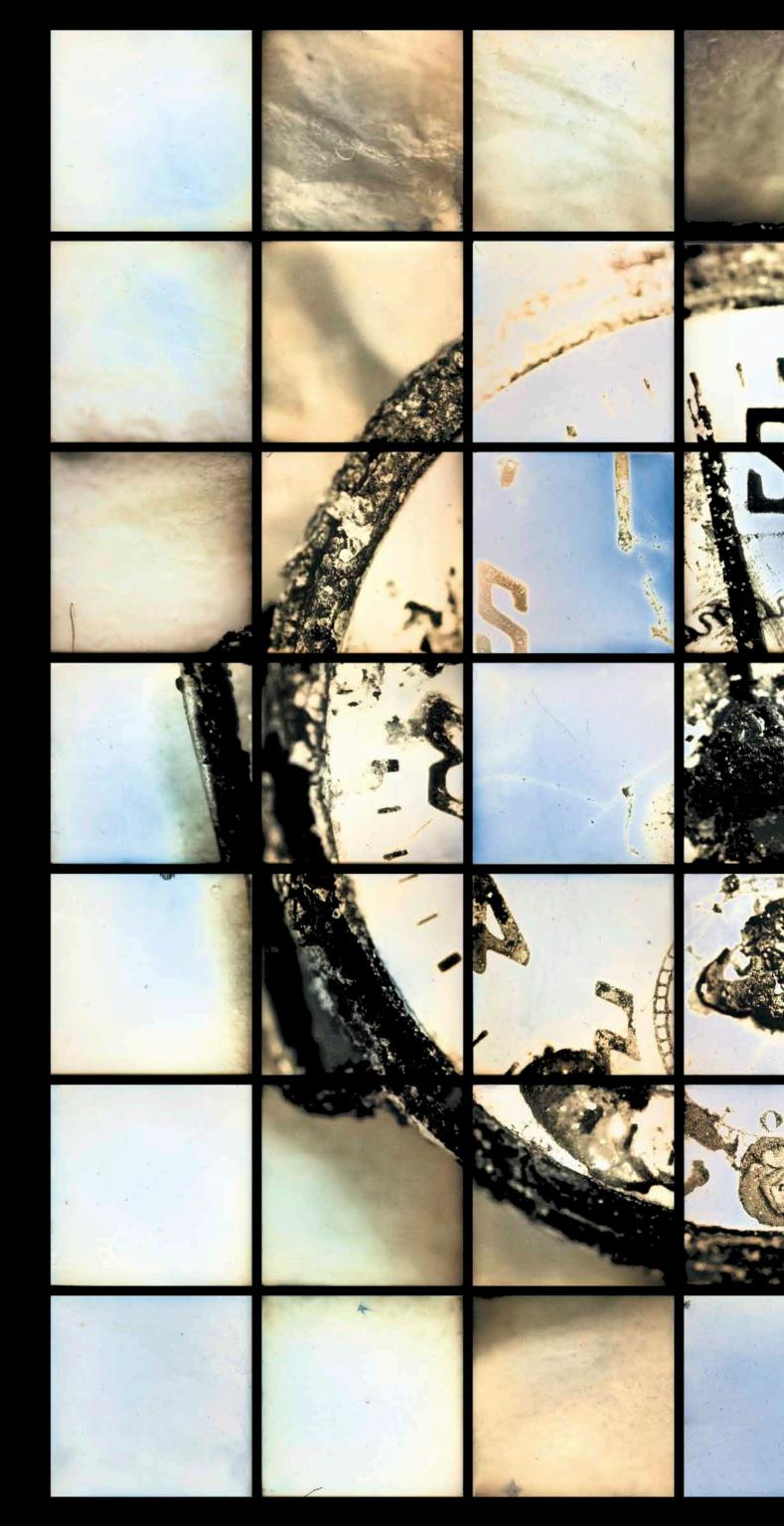
|診療時間

月·火·金:11:00~14:00、15:30~20:00 水・土・祝:10:00~13:00、14:30~19:00

平日夜8時まで、 土日祝日も診療してます

吉住歯科

検索







11期生集合写真

多様性を実感するひととき……

ICU桜祭りが開催されました

3月26日(日)午後2:30より、年一度の同窓会総会を兼ねた「桜祭り」が開催された。 あいにくの雨模様だったが、大きく膨らんだ桜のつぼみが迎えた。その内容をレポートする。 文:安楽由紀子 写真:樺島榮一郎(ともに本誌)

桜祭りは、同窓会総会、DAY賞表彰式、卒業50周年記念式典、懇親会という流れ。まず、大学礼拝堂で同窓会総会が行われ、152人が参加した。樋川勲さん(48 ID04)指揮のICU OGC合唱団によるハレルヤコーラスとICU教会北中晶子先生(46 ID02)の祈祷により始まり、テレビ東京アナウンサー狩野恵里さん(53 ID09)の司会で進行。

議長に森川園子さん(44 ID00)、副議 長に鎌田博光さん(27 ID83)、書記に和 田裕子さん(44 ID00)を選出し、2016 年度活動報告、2017年度活動予定、なら びに2016年度決算報告、2017年度予算 案の報告が行われ、満場一で承認された。

続いてDAY賞表彰式で今年度受賞者3組 4名の紹介(別稿参照)。

11期生(1967年卒)53人が参加した 卒業50周年記念式典では、木越会長の祝 辞とともに記念品が贈られ、11期生を代 表して田畑洋子さんがスピーチ。再会を喜 ぶ同窓生たちから大きな拍手が贈られた。

その後、大学食堂に場所を移しての懇親 会には169人が参加し、DAY賞を受賞し たハンス&みどり・シュローダー夫妻のワ イン「Musashino Cross」がふるまわれ 和やかな歓談の場となった。

乾杯の発声をした九州・山口支部の山口 実さん(17期)は、毎年桜祭りに参加し ているそう。「ICU生はボーダレスで互助 共生の精神を構築できる存在。世界で起き ているさまざまな問題を解決する力となる はず」と熱く語っていた。

同窓生5人とともにピアノと二胡の流麗 な演奏を披露した33期の谷摂子さんは、

「5~6年前にアラムナイニュースで二胡 愛好家を呼びかけ、集まったメンバーで今 回演奏しました。年代もキャリアも違いますが、二胡によってつながれてうれしい

と感慨深げ。

北城恪太郎理事長は、「大学は卒業生によってつくられていくものだと思う。さまざまな分野で活躍する卒業生が集まり、ICUの教育のすばらしさについて話し合える場があることは素晴らしいこと」と語っていた。

最後に全員で「The ICU Song」を斉唱。 「友情のまがきに 手をとり生きつ」 「As thy grateful sons and daughters We would serve thine every need」

英語の歌詞で歌う人、日本語で歌う人さまざま。多様であり、ひとつである。ICU らしさに胸が熱くなるひとときだった。



司会狩野恵里さん (53 ID09)



11期生代表田畑洋子さん



総会議長団



二胡ガールズの演奏

DAY受章者に、 同窓生に向けての コメントをいただいた。

文:小熊由美子(本誌) 写真:本人、樺島榮一郎(本誌)





みどり・シュローダー ハンス・シュローダー

SCHRODER, Midori (10) SCHRODER, Hans-Peter (13)

我々は在学中の1965年に結婚。アパルトへ イト政策のため、ハンスの祖国南アフリカ政府 から結婚は認められず帰国もかなわず。25年 間の日本生活を経て政策が終局に近づいた 1988年、ケープタウン近郊に農園を買い移住。 ワインに造詣の深いICUのマーハ教授の発案で 2004年にICUワイン生産開始。南十字星(サ ザンクロス)が見られる南アフリカと国立天文 台がありICUがある武蔵野を結び付けて「武蔵 野クロス」と名付ける。現在南アと日本が、お 互いを理解し合えるようにと、相互の文化の紹 介、交流にも努めている。2016年10月両国親 善に協力したとの事で、ハンス氏は外務大臣賞 を 授 与 さ れ た。Do not be afraid to make controversial and challenging decisions. Be the nail that others want to knock down.

みどり:1966 年人文科学科卒 東京生まれ ハンス:1969 年社会科学科卒 南アフリカ生まれ 在学中に結婚し、日本、LA を経て89年にケープタウンに移住 しワイン作りを始めた。

二人が運営しているスタークコンデワイナリーの ICU ワイン 「武 蔵野クロス」は ICU 近くの「Cadot」で購入可能。



中島 和子

NAKAJIMA, Kazuko (3)

研究者としての人生を振り返ってみると、ICU 初期の建学精神が原点にあることは疑う余地が ない。最前線の構造言語学を欧米の教授から 直々に学べたこと、同時に金田一春彦、柴田武 など著名な研究者から国語学・方言学を学べた ことも、その後の私のささやかな研究活動に計 り知れない影響を与えている。「目立たないとこ ろで将来の捨て石に」という当時のICU精神を モットーに、「複数言語に触れて育つ言語マイノ リティを支える教育―子どもの2言語の発達と 帰属意識」をテーマに、長年一貫して国内外で 研究活動に取り組めたのもその現れであろう。 現在、トロント補習授業校高等部校長を兼任し ながら、どの言語も低迷する「リミテッド状況」 の子どものために「バイリンガル・マルチリン ガル子どもネット」(BMCN) を立ち上げたと ころである。国の言語資源を高める日本の言語 政策のあり方について常に心を痛めている。

1959 年語学科卒。ICU とハワイ大学を経て、トロント大学東アジア研究科に 35 年勤続。2002 年より名古屋外国語大学日本語科教授および日本語教育センター長。現在トロント大学名誉教授、カナダ日本語教育振興会及び母語・継承語・バイリンガル教育研究会名誉会長。



徳増 浩司

TOKUMASU, Koji (18)

グローバリゼーションが問われている今だか らこそ、スポーツの力を強く感じる。リベラル アーツを謳うICU生には是非、ボランティア等 何らかの形で2019ラグビー WCや東京オリン ピックに力を貸して欲しい。ICU生は国際スポ ーツイベントの当事者になり得るバックグラウ ンド(国際感覚、語学、多様性)を備えている。 ラグビー WCの日本招致成功でも、ICUで学ん だことが役に立った。「自分で選んだ事をやり たい!」という一念が、要所要所で運命的な出 会いを結び付けた。第一男子寮での「細木杯」、 ウェールズへの渡航、ICUラグビー部同期の勧 めで監督になった茗溪学園では全国ラグビー大 会優勝…そして、日本ラグビーフットボール協 会へ。2019のラグビー WCはあっという間に 終わる。次の夢はその後のこと。地域の子供た ち、アジアの子供たちにスポーツを通じて働き かけて行きたい。

1974 年教育学科卒。新聞記者を経てウェールズのカーディフ教育大にて 2 年間コーチングを学ぶ。帰国後茗溪学園中学校高等学校に赴任し、同校ラグビー部を第 68 回全国大会優勝、69 回大会 3 位に導く。95 年から日本ラグビーフットボール協会に勤務し、「ラグビーワールドカップ 2019」招致に成功。現在、アジアラグビー会長。

「悩まずに、共有しよう」 木越会長が卒業式でスピーチ

文:安楽由紀子(本誌) 写真提供:国際基督教大学アドミッションズセンター

「卒業おめでとう! そして今日から 皆さんは同窓会の正会員、心から歓迎 致します」。昨年3月23日、大学礼拝 堂で行われた卒業式では、木越純同窓 会会長がスピーチをした。

当会は大学からは独立した団体として、独自に同窓生相互の親睦、およびICUの発展に向けて活動を続けてきた。そのため、大学の公式行事である卒業式に出席することはこれまでになく、時として会員募集に苦心することもあった。しかし近年、大学で働く同窓生が増えてきたことで大学との連携を強め、いっそうICUの発展に寄与できるようになりつつある。

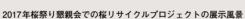
卒業生を前に、木越会長は自身が 30代半ばだった頃を振り返った。

「ロンドンに赴任、小さいけれどチームを任されたところで、とんでもないトラブルに巻き込まれました。誰も対処法を教えてくれない前例のない状況を、知恵と体力を振り絞って切り抜けようと必死にもがいている中で、ICUで得たものを意識しました。リベラルアーツってそういう事なんだ! 一息付いた時に『ICUで本当に良かった』と思いました」



卒業生に呼びかける木越会長

そして、次のように呼びかけた。 「これからICUを巣立ってゆく皆さん にも、いつかそんな時が来ると思いま す。ただそれまでの間、一人で悩むの は止めましょう。時には恩師を訪ね、 同期と呑みましょう。この小さな大学 には、驚くべきことに、ビジネスや学 究の世界だけでなく、政治やジャーナ リズム、医療や国際協力、あるいは芸 術やスポーツと、ありとあらゆる分野 で活躍している同窓生がいます。それ ぞれの道で独自の境地を築いてきた 方々です。そうした先輩と知り合い 『ICUで本当に良かった』を共有でき たら、なんと素晴らしいことではない でしょうか。そのきっかけが得られる のが、同窓会です」





新学生寮に設置された扁額。 岩田岳久さん(左) 千田哲史さん(右)





桜ハンコ

ICU桜リサイクルプロジェクト活動報告

文:岩田岳久(21 ID77)

ICUの桜並木。植樹から60余年経った老木が伐採されそのまま放置・廃棄されている事態を憂えた私たち同窓生有志は、「ICU桜リサイクルプロジェクト」を立ち上げ、桜材を大事な資産としてリサイクルする試みを始めました。

同プロジェクトではこの材木から図 書館内看板やキーホルダーや杖等の同 窓会グッズを作成してきました。

また、大学に桜材の利用を働きかけてきた結果、今年3月に卒業式用写真立てを販売することができましたし、7月にお披露目が行われた新学生寮の

和室の入り口に同じく桜材の扁額が設置されました。

今年の桜祭りでは、桜材のはんこの テスト販売を行いましたが、大変好評 でした。同プロジェクトは、今後も毎 年伐採される桜の木をリサイクルさせ て様々な桜グッズを制作すると共に、 売価の10%を桜並木再生のための基 金として積み上げていく計画です。つ きましては、今後とも多くの同窓生の 皆様のご協力をお願いします。

(ICU桜リサイクルプロジェクト メンバー一同)

Campus Ground Design

キャンパス・グランド・デザイン・ オープン・フォーラム参加記

文・写真: 樺島榮一郎(本誌)

2017年2月25日、ディッフェンドルフ ァー記念館東棟オーディトリアムホール (D館オーディトリアム) にて、同窓生を 対象としたキャンパス・グランド・デザ イン・オープン・フォーラムが開かれ、約 100人の同窓生が参加した。

新キャンパス・学生寮の構想

キャンパス・グランド・デザイン(以下、 CGD) とは、献学60周年にあたり隈研吾 建築都市設計事務所および日本設計により 立案された、キャンパス整備の基本計画で ある。詳細を知りたい方は、大学Webサ イトと2016年2月発行のAN123号に筆者 執筆の記事があるので、ご参照いただきた いが、概要を簡潔に述べると、現状のキャ ンパスの使用状況を踏襲したゾーニング、 芝生のクアドアングルの新ロータリー(現 バス停)までの拡張、寮、体育施設・教員 住宅、本館といった整備の順序などが示さ れたものとなっている。CGDオープン・ フォーラムは、大学が主催する、大学と関 係者のCGDやキャンパス整備に関する意 見交換会だ。これまで、2016年6月と9月 の2回、教職員向けのオープン・フォーラ ムが開催されているが、同窓生向けのもの としては今回が初めての開催となる。

まず、北城恪太郎理事長と木越純同窓会 会長より、挨拶があり、フォーラム開催の 経緯と、今後も複数回、同窓生向けのフォ ーラムを開催するとのが説明あった。次 に、日比谷潤子学長より、施設整備の必要 性、およびCGD概要についての説明があ った。施設の必要性としては、学生数の増 加に伴い教室、特に大教室が不足している こと、職員が複数の施設に分散しているこ と、老朽化、空調設備の劣化により温度調 節が難しいこと、ICTやバリアフリーへの 対応が挙げられた。CGD概要については 上記と重複するので省略するが、特筆する とすれば、本館、D館はまだ建て替えるか どうか決定していないと強調されていたと ころであろうか。また、320人収容という 大規模な新々寮の必要性について、寮に入 れない人への対応のみならず、4年間在学 する留学生のリクルートや、交換留学にお いて寮のキャパシティが必要である旨が説 明された。また、プールと増築される体育 館が、2017年秋に着工されることが明ら かにされた。

資金に関する説明と質疑応答

次に、新井亮一理事より、本館に関連し た検討事項と施設整備を行う資金について の説明があった。コンクリートの寿命は 60年とされており、それを修復した例も あるが、その例では新築の1.3倍の費用が かかったこと、実際の修復費用はケース・ バイ・ケースで精査しないと不明であるこ と、修復しても新築同様に60年使えるこ とにならないといった説明があった。また、 本館の空調や配管は1978年に更新された もので、更新が必要な状況だが、これは一 般に新築時建設費の30%程度の費用が必 要であり、更新を行うためには躯体が長期 的に使えるという前提が必須である、とい う話があった。今後は、保存費用と新築費 用の比較、さらなる耐震補強を行うかどう か、空調や配管の更新、工事の期間と授業 への影響等を検討して、本館全面改修保存 と新館建設、一部改修・保存+新館、全面 的建て替えといった選択肢から最終的な決 定を行うとのことである。資金については、 基金を取り崩すことはなく、現在の低金利 状況を生かして借り入れによって賄うとの ことだが、基金の運営状況も、本館のみな らずキャンパスに使える長期的な資金額に 影響するとのことである。



オーディトリアムに集った参加者

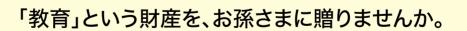
その後、30分のコーヒーブレイクをフ ォイヤーで行った後、質疑応答に移った。 質疑応答に多くの時間を割り振ろうとの意 向から、1時間45分の時間があったが、活 発な質疑が行われ、何人かは質問できずに 終わったほどであった。質問を大まかに分 類すれば、一番多かったのは、大学の理念 がまずあってそれを実現するものとしてキ ャンパスを整備すべきで、現在の大学の理 念とは何かと問うものであった。次に、少 人数教育を維持するのか、少人数教育でな ぜ大教室が必要かというものがあった。少 人数教育は継続するが、学費を現水準にと どめるためには現在程度の学生数が必要、 一般教養等の科目によっては大教室が必要 との回答があった。その他、理事会のガバ ナンスのあり方に関する質問があった。詳 しくは、同窓会Webサイトに議事録が掲 載される予定であるので、そちらを参照願

近年、大学は同窓会評議員会などの場で、 キャンパスの建物の計画を同窓生に説明す



登壇者たち

るようになってきたが、今回のフォーラム は、誰でも参加できて、十分な時間がとら れたこともあり、詳細な説明と、多くの質 疑を可能にして、これまでより一歩踏み込 んだものになったと感じた。今後も、同窓 生向けオープン・フォーラムが開催される 予定であるので、興味のある方はぜひ参加 いただきたい。開催情報は、同窓会Web サイトなどで告知される。このような会合 がうまく機能し、より素晴らしいキャンパ スが実現することを期待したい。



いたい。

教育資金贈与信託 〈愛称:孫への想い〉

「教育資金贈与信託〈愛称: 孫への想い〉」は、 30歳未満のお孫さま等への教育資金として 当社へお預け入れいただき、

当社はお孫さま等からの払出請求に基づき、 教育資金をお支払いする商品です。

- ●5,000円からお申し込みいただけます。
- ●贈与を受ける方は、30歳未満のお子さま、 お孫さまのほか、ひ孫さまも対象になります。

お問い合わせの際は「アラムナイニュースを見た」とお伝えください。

特長1 教育資金としてしっかり管理 贈与した資金は 使途が教育資金に 限定されるので 安心です。



特長3 無料! 管 理 料 払出手数料

お問い合わせ・資料のご請求は

0120-988-494 受付時間 平日9:00~17:00(土・日・祝日および 12/31~1/3はご利用いただけません)

孫への想い 検索 その人を信じて、その人に託す。 *Meet* The Trust Bank

今年も 開催します!

ICU卒業生によるICU生のための 「キャリア相談会2017」

文:同窓会学生部

12月9日(土)に大学食堂にて、あらゆる業界で活躍するICU卒業生が一堂に会します!ICU同窓会が数か月も前から準備して行う一大イベント「キャリア相談会2017」。キャリア全般

に関する不安・質問から、特定の業界や職種に焦点を当てた疑問まで、先輩たちが本音でお答えします。"就活"だけではなく"キャリア"について、ICUの先輩たちと話してみませんか?

日時:2017年12月9日(土) 13時~17時(予定)

場所:大学食堂 Aフロア

対象者:国際基督教大学在学生 先着120名

※3年生に限らず全学年および大学院生も参加歓迎

参加費:終身会費納入済の学生*… 無料 上記以外の学生…2,000円

申込受付:11~12月にキャンパス内にて、対面で実施

※開催時間、申込受付、参加卒業生の勤務先など、詳細が決まり次第、 下記サイトに掲載します。

同窓会webサイト http://www.icualumni.com/

同窓会Facebook https://www.facebook.com/icualumniassociation

7_Goods

同窓会グッズを紹介

文:渡邊一美(3)

好評の内に完売した、ICUの文字と 楯を正面に刺繍したICUキャップ。ご 要望に応えて、刺繍を側面に移したモデルの販売を開始いたしました! 頭囲は57cm~65cm。色はネイビーとベージュの2色。価格は各1900円。 学内三省堂と同窓会事務局にて販売しております。



同窓会グッズのご購入方法

商品名、個数、色、サイズ、送付先などを記載の上、ICU同窓会事務局 (aaoffice@icualumni.com) までお申込みください。折り返し、事務局 から振込先、金額をお知らせし、入金確認後、商品を発送させていただきます。

- ICU同窓会事務局 TEL&FAX 0422-33-3320
- ※価格は税込みです。
- ※送料については、大きさ、重さによって異なりますので、同窓会事務局にお問い合わせください。
- ※写真と、実際の色味が異なる場合もございます。
- ※品切れの際はご容赦ください。
- ※学内では、三省堂書店、および、アラムナイハウス2階の同窓会事務局でも購入できます。

同窓会 支部紹介



支部名:ニューヨーク支部

文:大澤泉(48 ID04)

過去数年、交流の機会を増やすべくいろいろ試みているニューヨーク支部ですが、今年は1月にJICUFと共催で新年会を開いたのに続き、4月には、家族連れでも参加できる週末の野外イベントとして、セントラルパークにてお花見の会を催しました。7月には

JICUFのグローバルリンクプログラム に参加する学生15人を迎えるレセプ ションが予定されており、北米在住・ 勤務の様子をフィードバックしつつ現 役生を応援する機会になれば、と思っ ております。



支部名:ICUラグビー部 OBOG会支部

文:山本海斗(54 ID10)

1959年設立。ラグビー部は2019年、 日本でラグビー W杯が開催される年 に、創部60周年を迎えます。この記 念すべき年にICU Rugby Festivalと 称し、ラグビーを通じたインターナシ ョナルな交流大会をICUで実施します。 様々なコンテンツを用意し、同窓生の 皆さんにも楽しんでいただけるような お祭りになる予定です。今後、継続的 に情報を発信して参りますので、ご期 待ください!

ICU 教会の挙式予約受付は ICU サービスにて承っております。





ICU 教会の教会挙式のご予約は ICU サービスにて承っております。 (2017年4月より)

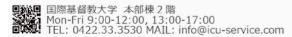
挙式をご検討中の皆様、 当社ホームページや Twitter, Facebook ページをご参考に お電話にてお問い合わせください。







株式会社 ICU サービ









From the University

大学のページ

今回のアラムナイニュースから、学生の学修研究と課外活動を支える事務部署の今をお伝えします。

第1回は、2008年4月以降に入学された同窓生の皆様には馴染みのある大学事務部署、アカデミックプランニング・センターです。 昨今、各大学が学修支援に力を入れる中にあって、その先駆的組織として、他大学から見学者が多数訪れるなど、注目を浴びています。

From the latest ICU Alumni News, here is a report on what is happening today in the offices that support students in their studies and extracurricular activities. Part I is about the Academic Planning Center, a university office that is familiar to graduates who enrolled in ICU after April 2008.

As other universities strengthen their academic support, this office at ICU is capturing the spotlight as a pioneer. Many officials from other universities visit the center.







左から/大枝さやかさん、APCスタッフとIBSメンバー たち、本館ラウンジでの新入生対象履修相談会

From left: Ms. Sayaka Oeda, APC staff members and IBS (ICU Brothers and Sisters), IBS advising sessions for new students at the lounge of University hall

アカデミックプランニング・センター

アカデミックプランニング・センター (APC)は2008年4月にICUがメジャー制になった年に開設されました。 履修をはじめとしたICUでの学び全般に関して、学生の個別相談に応えています。

アカデミックプランニング・センター職員 大枝さやか (45 ID01)

学びに関することなら何でも

アカデミックプランニングとは、「何を どのように学ぶのか」について意思決定し、 主体的に計画することです。プランニング には毎学期の履修計画、メジャー選択、交 換留学やサービス・ラーニングといったプ ログラムへの参加、教職課程や学芸員課程 などの資格課程、卒業研究などが含まれま す。科目選択の自由度が高くさまざまな学 びの機会があるなかで、ひとりひとりの価 値観や目標に照らし合わせて、何をどのよ うに取り入れていくのかを支援するのが APCであり、アカデミック・アドヴァイ ジングと呼ばれるものです。相談に対応す るのは専任職員2名ですが、内容によって はより詳しいアドヴァイスが受けられる部 署や教員につなぐこともあります。

APCでは「複数のメジャーに興味があ って絞れない」「将来こうしたことをやり たいのだが、どのメジャーを選ぶとよい か」といったメジャー選択を中心とした相 談をはじめとして、「交換留学に行きたい のだけれど、就職活動の時期と重なること が不安で迷っている」「教職課程を履修し ているが、メジャーの学びとの両立が難し くなってきた」「5年プログラム*か、ICU 以外の大学院への進学か、就職かで迷って いる」といったいくつかの要素が組み合わ さった相談を受けることがよくあります。 私たちは学生の話をよく聞いて、本人が大 事にしたいことは何かを引き出し、それに 沿った意思決定ができるよう支援していま す。アドヴァイジングの中ではこちらから 選択肢を示すこともありますし、それぞれ の選択肢について本人にとってのメリット とデメリットを一緒に検討することもあり ますが、最終的に決定するのは学生自身で

*5年プログラム:通常6年間のところ5

年間でICUの「学士」と「修士」が取得できるプログラム

学生同士だからこそできること

APCに はIBS(ICU Brothers and Sisters)というピア・アドヴァイザー (Peer Advisor) が21名いて、「自発的学 修者の育成に学生の視点・立場から貢献す る」というミッションのもと、相談に対応 しています。IBSは相談に来る学生の話に 耳を傾け、抱えているものを整理する手助 けをしつつ、自らの経験を交えてアドヴァ イスをします。学生同士だからこそ共感で きることや伝えられることがあり、教職員 にはできない重要な部分を担っています。 学生が学生を支えるピアサポートは全国の 大学で広がりを見せている取組みで、学生 の相互援助を活性化する試みといえます。 他大学のピアサポートは生活面の支援や仲 間作りといった側面が強いのですが、IBS はアカデミック・アドヴァイジング、すな わち教育支援であることが大きな特徴です。

IBSを採用し研修を行い、日々のピ ア・アドヴァイジング活動を支えるのは、 APCの業務の中でも大きなウェイトを占 めています。学生とはいえアドヴァイジン グには相応の責任が伴いますので、年間を 通して綿密な研修を実施しています。相手 の話を聞きながら必要に応じて情報を提供 することや、適切な学内リソースを紹介す ることが求められます。研修では知識を身 に付け、さらにロールプレイを用いて対話 のスキルを磨いています。加えてICUの歴 史や理念、キリスト教、リベラルアーツの 考え方を学ぶことも大切にしています。特 筆すべきことは、職員が実施する研修と、 IBSが自主的に行う研修の二本立てである ことです。IBSはその名の通り、ICU生の 良き兄・姉として常に寄り添う存在であり たいという思いと、ICUの教育理念を実現

していこうという意識を持って活動しています。不安な表情で相談にやって来た学生が、IBSと対話をするうちにだんだんと明るい表情になり、励まされた様子で帰って行く姿を見るのは嬉しいことですし、学生が学生をアドヴァイジングする価値を感じます。

教員アドヴァイザーを支える

学生ひとりひとりに専任教員がつくアドヴァイザー制度は現在も続いています。学生は履修登録日に先生の研究室を訪れ、履修計画のアドヴァイスを得ます。教員アドヴァイザーは履修や成績など学修上の問題と生活全般における相談にのり、助言を行います。APCは教員アドヴァイザーを支援する役割もあり、新任の教員を対象にアドヴァイジングの基本や成績が振るわない学生の対応などについてオリエンテーションを実施しています。

多様化する学生を支援する

ICUの最近の変化のひとつとして は、2015年に学修・教育センター(CTL: Center for Teaching and Learning) が設立され、学生と教員の支援により一層 力を入れる取組みを始めたことが挙げられ ます。APCは2016年より所属が教務部か らCTLに変わりました。APCはアドヴァ イジングに特化した部署としてCTL内に ありますが、多様化する学生の問題に応え るべく、学修面の支援という役割が新たに 期待されるようになっています。他大学の 学修支援は授業についていけない学生に対 する補習が主流となりますが、ICUに合っ た学修支援は何なのか模索しているところ です。この流れの一環としてAPCは昨年、 タイムマネージメントのワークショップを 開きました。ICU生は学業に加え、部活・ サークル、寮での役割、インターンシップ、 アルバイトなど普段から忙しい毎日を送っていますが、学期が終わる頃になると試験の準備や課題の締め切りに追われストレスで疲れきっていたり、体調を崩したりしている姿を見かけます。ソーシャルメディアに思いのほか時間を取られていたり、というで思いのほか時間を取られていたり、というが必もあるようです。タイムマネージメントのスキルは生涯役立つものですから大学生のうちに身に付けて、心身の健康を保ち満のをいき生活を送るとともに、どんなときでも本来持っている力を発揮できるようになってもらいたいと考えています。

最後に

迷ったり悩んだりすることには苦しさが ありますが、その葛藤を経て自分にとって 最適な道を選び取った人は、充実した学 びと自信を手に入れているように思いま す。学生には迷い悩むプロセスを肯定的に 捉えてもらいたいですし、アドヴァイジン グを通してお手伝いできればと願っていま す。私は2009年9月にAPCに配属されて 現在に至ります。この仕事は奥が深く、何 年経験してもやりがいは尽きません。国内 ではICUのようなアドヴァイジングを行っ ている大学は珍しいため、毎年米国で開催 されるアカデミック・アドヴァイジング の学会"National Academic Advising Association (NACADA)"に参加して最 新の理論と実践を学び、普段の業務に取り 入れるようにしています。私自身卒業生で あり、後輩を応援したいという気持ちも大 きなモチベーションとなっています。IBS の献身的な働きぶりを身近で見ていると、 このような学生が育っていることが頼もし く勇気づけられます。ICUでの生活を通し て学生が自らの使命に出会う、その一助と なれるようこれからも対話を続けていきた いと思います。

Academic Planning Center

The Academic Planning Center (APC) was established in April 2008, when the university adopted the current major system. The center provides students with individual advice and consultation about course plans as well as studies in general at ICU.

Sayaka Oeda, Academic Planning Center staff member (45 ID01)

Open for Any Questions about Learning

Academic planning means to make decisions on "what to study and how to study it and set up plans proactively. The planning activities include deciding on course work for each term, selecting majors, considering participation in programs such as study abroad and service learning, as well as qualification courses such as teacher certification program and curatorial training program, and conducting senior thesis research. With great flexibility in the choice of subjects and various study opportunities, APC supports students to decide what to study and how to study it in line with the values and goals of each of them, which is called academic advising. Two regular full-time staff members respond to questions and inquiries. Depending on the nature of consultations, the staff may refer them to other offices or faculty members that can offer more detailed assistance.

In many cases, APC provides consultation for issues involving the selection of majors, such as "I am interested in more than one major and I can't decide which one to choose,"or "What should I major in to pursue the career I want to choose in the future?"Also, we are often asked advice on multi-faceted issues, such as "I want to study overseas, but I cannot make up my mind feeling anxiety because the exchange program coincides with the job-hunting season,""I am taking the teacher certification program, but I am having trouble managing both the program and my major at the same time, "or "I cannot decide which path to take, enrolling in the 5-Year Program,* going on to graduate school at a university other than ICU or finding work."We listen to those students carefully and try to help them find what it is they value most and make decisions according to their values. During advising, we may present choices ourselves, or discuss the advantages and disadvantages of each of the choices for the students. In the end, however, it is the students themselves who make the decisions.

*5-Year Program: a program that allows

students to obtain both a bachelor's degree and a master's degree in a total of five years, instead of in the usual six years.

Things Only Students Can Do for Other Students

At APC, there are 21 Peer Advisors called "ICU Brothers and Sisters (IBS). They provide advice to serve their mission "to foster intentional learners from the perspectives and standpoints of students."IBS listen to what students have to say and give advice based on their own experiences while helping them to sort out problems and issues that confront them. There are things that can be shared or communicated only between students. From that perspective, IBS play an important role that faculty and staff members are unable to fulfill. Peer support, an initiative in which students assist other students, has been spreading among colleges and universities throughout the country. It is supposed to revitalize mutual support among students. Peer support programs at other universities place emphasis on aid in students' lives or networking, whereas IBS offers academic advising-in other words, educational support-which makes our program quite unique.

Recruiting and training IBS and supporting their daily peer-advising activities carry great weight among APC's duties. Even though IBS are students, they bear responsibility that is commensurate with their task of advising. That is the reason APC provides careful training for them throughout the year. They are required to provide information as necessary while listening to students and supplying them with appropriate on-campus resources. During their training, IBS acquire the knowledge necessary for their work and also hone their dialogue skills through role playing. In addition, we consider it important that they learn ICU's history and mission, Christianity and the concept of liberal arts. What is noteworthy is the fact that two training programs are conducted simultaneously- one by staff members and the other by IBS on their own. IBS, as their name

shows, are working with the hope of standing by ICU students as their good brothers and sisters, and also with the sense of duty to fulfill the university's academic mission. It is always good to see students, who come in for consultation looking so worried, gradually become cheerful as they talk with IBS and leave the office encouraged and reassured. That is the moment when we feel the value of the system of students advising other students.

Supporting Academic Advisors

The academic advisor system, in which a full-time faculty member is assigned to each student, is provided ongoingly. On the day of course registration, students visit their advisors in their offices and receive advice on which classes to take. Academic advisors give guidance to students on problems and issues about their studies such as course plans and academic performances, as well as their life in general. It is also one of APC's roles to support these academic advisors. APC conducts orientation programs for new faculty members on the basics of advising and how to guide students with poor academic perfor-

Support for Diverse Students

One of the recent changes at ICU is the establishment of the Center for Teaching and Learning (CTL) in 2015, with the aim of bolstering support for both students and faculty members. Beginning in 2016, APC has been a part of CTL, instead of the Academic Affairs Division. Within CTL, APC specializes in advising, but it is also expected to play a new role of supporting academic studies in response to the growing diversity of issues that students face. The academic support provided by other universities mainly takes the form of supplementary lessons for those students who are falling behind in class. At ICU, we are trying to determine what sort of academic support is appropriate. As part of the recent trend, APC held a workshop on time management last year. ICU stu-

dents are busy everyday not only studying but also participating in extra-curricular activities, carrying out their duties in dormitories, doing internships and working part-time. As the term approaches its end, we often see many of them stressed out or suffering from health problems, preparing for exams and racing against time to meet deadlines for their assignments. Their problems also include spending too much time on social media or being unable to decline requests from friends. Time management skills will prove useful throughout our lives, and I hope that students will acquire the skills while studying at ICU in order to stay healthy both physically and mentally, so that they can spend a fulfilling student life and always demonstrate their innate abilities.

Conclusion

We suffer when we are at a loss or worried about something, but I think those who find the best path for themselves through such conflict and struggle gain satisfying learning experience and confidence. I hope that students deal with this struggling process positively and that we can help them go through it with our advising. I was assigned to APC in September 2009, and I still find this advising work profound as well as rewarding. Since there are no other Japanese colleges and universities that have the same quality of advising as ICU, APC staff members participate in the conferences of the National Academic Advising Association (NACADA) held in the United States every year, in order to learn the latest theories and practices, and apply them to advising at home. The fact that I am also an ICU alumna and want to help young students is a major source of my motivation. Observing the IBS who are dedicating themselves to their work, I feel reassured and encouraged that such students are being developed in our university. I hope to continue dialogue with them so that I can help them find their own missions through their life at ICU.

アカデミックプランニング・センターの概要

●場所:東ヶ崎潔記念ダイアログハウス2階

●職員数:2人 ●IBS:21人

学生の履修選択やメジャー選択など学びに関することを中心にさまざまな相談に応じている。 また、多様化する学生の問題に応えるべく、毎年アメリカで開催されているアカデミック・ アドヴァイジングの学会"National Academic Advising Association (NACADA)"に 参加し、最新の理論と実践を学び、アドヴァイジングスキルの向上に努めている。

Outline of the Academic Planning Center

- Location: Second floor, Kiyoshi Togasaki Memorial Dialogue House
- ●Number of staff: Two
- ●Number of IBS: 21

The center provides students with advice on a variety of issues centering on their course and major selections. The staff take part in the conferences of the National Academic Advising Association (NACADA) held in the United States every year to learn about the latest theories and practices and try to improve advising skills in order to effectively respond to increasingly diversifying issues the students face.

From The Alumni House

アラムナイハウスから

ICUICUの会支部総会・ 講演会·懇親会報告

文: 土橋喜人 (35 ID91)



桜咲く4月2日、晴天のICUキャンパスにて、 ICU出身者(高・大・院・教職員)による ICUICUの会支部の総会、吉川元偉(18) 前国 連大使による講演会、そして懇親会(+二次会) を開催しました。参加者は約55人。昨年の40 人から大幅に増加。現役の学生もオブザーバー 参加してもらいました。同窓会会長、ICU常務 理事などにもご参加いただき、上は5期前後か ら、下は現役の62期(ID18)まで。国際機関、 NGO、大学、研究機関、コンサルタント、民 間企業、金融機関、の現役・OBOGと、幅広 い分野の皆様にご参加をいただきました。

総会ではICUICUの会の成り立ちから現状、 抱えている課題などについてご説明いたしまし た。特に「ICUの学生の関心が薄れているので は?」といった危機感もあり、現役の生の貴重 な声を聞くことも出来ました。吉川前大使(4 月からICU特別招聘教授)からは、高校時代の お話に始まって、大学時代の学生生活、それと 外交官を選んだいきさつ、外交官になってから の道のり、加えて奥様との出会いなど、包み隠 さずお話しいただき、楽しく、興味深いお話を うかがうことができました。 懇親会は大盛り 上がりで、ほとんどみなさん立ちっぱなしで話 をされ、お連れ合いやお子様連れの方も楽しま れた様子でした。二次会にも、今年は14人が 参加されて、大いに盛り上がりました。

ニューヨーク支部・お花見の報告



4月23日の午後、快晴のセントラルパークに て、マンハッタンとニューヨーク近郊に住む同 窓生とその友人・家族、約30人が集まりお花 見の会を開催しました。直前までお天気が心配 されていましたが、当日になってみるとこの上 ないお花見日和で、それぞれ持参したピクニッ クブランケットの上にお弁当・お菓子を並べ、 和やかに春の一日を楽しみました。集合場所の ピルグリム・ヒルの桜は既に葉桜となっていま したが、公園内は様々な種類の樹木が競うよう に花を咲かせており、美しい季節が到来したこ とを体感する休日となりました。

ポットラック形式のピクニックだったため、 皆さんが持ち寄ったものも、おにぎり、稲荷寿 司、卵焼き、筑前煮、きんぴら、いかの丸煮、 餃子、キッシュ、ベーグル、シュークリーム等 多種多彩なご馳走で、1歳児から大先輩の同窓 生までみんなが終始笑顔で語らい合う機会とな りました。今回は、近年久々の週末・日中の行 事となりましたが、普段よりバラエティーに富 んだ顔ぶれで、今後も時間帯や日程を調整して、 より多くの同窓生とご家族に集まっていただけ るように工夫していきたいと思っています。

ニューヨーク支部は、交換留学中の現役生・ 元OYR・ICU高校卒業生・大学院卒業生も大 歓迎です。最近転勤・留学でこちらにいらした 方やご出張中の方も日程が合うようでしたら今 後のイベントにご参加ください。

お問い合わせ・参加希望のご連絡はこちらまで: ny-chapter@icualumni.com

facebook NY Chapter group pageもご参照く ださい。https://www.facebook.com/groups/ icunewvork/

ワシントンDC支部 上智大学との合同同窓会

文: 清水素子 (32 ID88)



大統領選を間近に控えた2016年10月22日、 ワシントンDCで、国際基督教大学と上智大学 の合同同窓会が開催されました。ICU同窓会ワ シントンDC支部会員相川めぐみさん(49 ID05) と、上智大学同窓会DC支部稲垣みほさ んの呼びかけで実現し、ICU同窓生Stephanie Benefield(19) さんのコンドミニアム一階ソ ーシャルルームで、両校卒業生とその家族、友 人計37人が集いました。ハロウィーンも近い

とあって、コスチュームを着たお子さんたちも 参加され、賑やかな会になりました。

送別会を兼ねたパリ支部有志の お食事会報告

文: 梨元実 (17)



マクロン大統領の就任式があった5月14日、 降ったりやんだりの天気でしたが、まずはおめ でたいことで、フランスでは一安心されている 方も多かったと思います。長年準備委員として パリ支部を支えてくれた古田薫美さん(26 ID82)が、いよいよ最終的に帰国されるので、 送別の一席を設け、12時に集まってから15時 近くまで、久しぶりにお会いして楽しく歓談し ました。やっぱり同窓会の特典でしょうか。実 際に会うといろんな話題がでて、多くの体験・ アドバイス・教養を深められます。これからも 懇親を兼ねて若い方々に少しでも得られるもの がある会にしていきたいと思います。

デンマーク支部ブランチ会報告



デンマークの首都コペンハーゲンで、「コペ ンハーゲンのカルチェラタン」と呼ばれる一角。 石畳の街路に面したそこでは、1479年にコペ ンハーゲン大学が設立されました。そして時を 経て、今日あるのは1800年代前半に建てられ た大学本部の建物群です。その裏手にあるモダ ンなカフェにて去る6月11日、デンマーク支部 のブランチ会を開きました。コペンハーゲン近 郊に在住の同窓生の方とその家族、そしてデン マークに一時滞在中の元留学生の方も参加しま した。

支部では毎年1月に新年会を開催しています が、新たな試みとして企画したこの6月のブラ

ンチ会。気取らぬ雰囲気の中、バラエティに富 んだビュッフェがいただけるカフェでは、食事 を楽しみながらお互いの近況や趣味、仕事につ いて、そして日本のスポーツ界の話題やここ最 近のEUの動向についてと、話題は尽きません でした。久しぶりにお会いする方も初めてお会 いする方も、年代や背景の分け隔てもなく語り 合えるのがICU同窓生の素敵なところでしょう。 そして記念の集合写真を晴天の下、古い町並 みを背景に撮り、会はお開きとなりました。

デンマーク支部では、北欧各国にお住いの皆 さまの参加をお待ちしております。支部代表メ ールアドレス宛に、ぜひご連絡ください。

UK Drinks & Dinner報告

文:田中清彦(14)



The third ICU Drinks this year, welcoming our Alumni Association President Jun Kigoshi(27 ID83), was held on Wednesday 7th June 2017. We met in the Cellar Bar at "Cittie of Yorke" pub as usual booked and managed by Kaori Mikata-Pralat (46 ID02).

It was very successful and enjoyable two hours attended by over 15 UK alumni members and followed by a dinner at "Kam Fung" Chinese restaurant nearby.

台湾支部会報告

文: Michael Guo(G1989)



2017年度の台湾支部会は、ちょうど東日本 大震災6周年を迎えた3月11日に、台中市内の インド料理店にて行われました。地震の頻度や 激しさが日本に負けない台湾が、東日本大震災 から何を学べるのかが冒頭の話題になりました。

今年は台中での開催ですが、地元台中在住の 高振華さん(G1968)が昨年亡くなられ、寂しく 思いました。今年は家族を含めて合計7人の集

≪ICU 同窓会の皆様へ≫ 三井住友トラスト VISA ゴールドカード 年会費を大幅割引!



通常税抜10,000円+税 税抜2,500円+税 です!

ETC VISA GOLD VISA 通常税抜11.000円+税

★ ご家族も本会員申込みOK!

★ 同窓会にもメリット!カード利用額の一部が同窓会に還元!

★ ご入会キャンペーン実施中!

VJAギフトカード1, 000円分をプレゼント!(平成30年1月末まで)

※本会員年会費は左記のとおりです。家族会員年会費は、税抜1,000円+税です ※ロードサービスVISAゴールドカードは、別途ETC年会費税抜500円+税(初年度無料)がかかります。なお、1年間に1回以上ETC利用のご請求があれば次年度は無料です。 ※ご入会にあたっては、当社所定の審査がございます。

申込書請求先(メール、FAXの方は、ICU 同窓会員であることに加え ①名前 ②住所 ③電話番号 をご送信願います。)

◆FAX の方

Moushikomi@smtcard.jp 03 - 6737 - 0834

税抜3,000円+税

◆お電話の方

0120 - 370 - 070

(取得した個人情報は VISA カード入会申込書を送付することに限定いたします。)

お電話受付時間:平日9:00~17:00(土・日・祝日・12/30~1/3休) 営業推進部:中馬•菅原•土屋



いでした。会食の前に、台南在住の黄英甫さん(G1973)とご夫人が、今度もわざわざ台南名物のかぼちゃ煎餅をお持ちくださり、プレゼントとして参加者全員に配りました。入部二年目の寺田 麗(49 ID05)さんが希望通り、留学生として台中の中国医薬大学に入学でき、参加者からの温かい祝意を受けました。今年の新入部員の武末重義(34 ID90)さんは台北から同窓会に初出席。初対面の4期から49期の先輩後輩と、世代を越えてすぐ溶け込むことができました。

インド料理屋さんのアットホームな雰囲気の中、1年ぶりの会話は尽きず、楽しい2時間を 過ごしました。

台湾支部報告 ICUラグビーチームの観戦・応援記

文: Micheal Guo (G1989)



6月10日、台湾支部の5人が結成した観戦・応援団は、新北市板橋第一運動場で行われた10人制ラグビー大会で、午前11時から13時までの5試合にご出場のICUラグビーチームを応援して参りました。炎天下、ラグビーの迫力、プレイヤーたちの真剣さや敢闘を改めて実感致しました。また、勇ましい若き後輩のチームメンバーのみならず、観戦にいらっしゃったOB会の諸先輩にもお会いすることができ、情熱溢れる会話や交流が行われました。

2005年のICU同窓会台湾支部発足以来、台湾での母校との交流は、今回のICUラグビーチームのご来訪が初めてなので、試合の前から、観戦にお越し頂けなかった台北・台南・花蓮在住部員から、チームの後輩たちへの記念品やプレゼントが沢山寄せられました。今後も同じような交流がますます深まるよう、期待致します。

上海支部会報告

ユノウ 又 ロロム + K 文:堀内英人 (45 ID01)



2月5日および4月11日、ICU同窓会上海支 部会を開催致しました。上海は数万人の在留日 本人を誇る中国最大の街ですが、ICU同窓会上 海支部は、毎回10人に満たない程度の人数が、 アットホームな雰囲気で同窓会を開催しており ます。2月の会ではメンバー2人の帰国、4月 の会では新メンバー 1人の参加を機に、ICUら しく少人数ながらも各年代の卒業生が集まって、 様々な話題と共に楽しい時間を過ごすことがで きました。現在、上海支部会は、大学のIDで 言えば80台から10台までのICU関係者で不定 期に開催しております。ただし昨今の経済情勢 を反映してか、近頃は帰任する方をお見送りす る回数が多く、現役メンバーも最盛期の3分の 1以下となってしまいました。いつでもメンバ -募集中ですので、ICUに縁のある方(大学、 高校の卒業生、OYR、ICUに在職された方な ど) で上海にいらっしゃる方、もしくはそのよ うな方をご紹介頂ける方は是非以下のメールア ドレスにご連絡ください。お待ちしております。 連絡先: shanghai-chapter@icualumni.com

香港支部会報告

文:内田久美子(56 ID12)



2016年11月25日、FCC (The Foreign Correspondents' Club) にて総勢19人で2016年ア ニュアルディナーを開催しました。今回のアニ ュアルディナーには15期生の方から2012年卒 の方まで、幅広い年代の方にご参加いただきま した。香港支部のイベントには参加が初めてと いう方も複数参加くださり、バラエティある背 景をお持ちの方々と大いに語らう大変楽しい夜 となりました。このようなディナーイベントの 他にも、ファミリーにて参加できるイベントも 企画予定です。香港支部は、香港出身でOYR だった方、駐在員として香港にいる方、香港に 長期滞在している日本人の方……とバラエティ -豊かな会です。在香港でICUに縁のある方は ぜひご連絡ください。イベント情報の受取りに は、下記メールにご連絡ください。また、 Facebookでのフォローもぜひお願い致しま す。連絡先:icuhk@hotmail.com

Facebook: https://www.facebook.com/groups/70261608882/

丸の内Style支部設立2周年記念 交流パーティー開催の報告

文:丸の内 Style 支部事務局



2月1日、東京・恵比寿のLe Maxenceで、 毎年恒例となった丸の内Style支部の交流パー ティーを開催しました。ID1970代から2010 代の現役まで幅広い同窓生約35人が集い、賑 やかな交流の輪が広がりました。皮切りは、ゲ ストの徳増浩司氏(18)の熱いラグビーとワー ルドカップのスピーチでした。ICUに入学した ことが、全てのスタートになったと語る徳増氏、 それがなかったら、ワールドラグビーカップ 2019の日本誘致はなかったということ。参加 者の間でサポート希望が続出、早速、パーティ ー会場でラグビー観戦イベントの企画アイデア が走り出しました。集合記念写真も、ワールド カップのチラシを掲げて、「チーズ」の代わり に「ラグビ〜!」でにっこりの撮影。PRタイム では、支部の次回企画、3月9日のMindfulness セミナーのPRに続き、4、5人が飛び入りで各 人の活動を紹介した後、同窓会・大学からも3 月26日の桜祭りへのお誘い、2月25日の同窓 生向けキャンパス・グランド・デザイン・オー プン・フォーラム開催の案内、大学の活動をサ ポートする募金活動の紹介と、人脈のみならず 情報交流も行われました。

香川支部設立の会報告

文: 浜崎直哉 (37 ID93)



2月25日、高松市内の中華料理店「本田」に て、ICU同窓会香川支部設立の会を開催いたし ました。5期から55期までの、香川在住の卒業 生13人と、徳島支部より大島浩輔さん(19)、 2次会からは元香川在住の杉山恵理子さん(24 ID80) が参加されました。

冒頭に浜崎支部長(37 ID93) より設立の趣旨の発表があり、末吉会長(16) による乾杯の発声で和やかに会はスタートしました。半数以上の方が初対面でしたが、自己紹介が終わるころにはすっかり打ち解け、賑やかに閉会を迎えました。連絡がつく卒業生が20人程度と、小さい集まりではありますが、年に1回程度は集まる機会を持ちたいと考えています。また、隣県である、徳島支部とは早めに交流の場を持つべく動いていきたいと思います。

Peace Bell Scholar支部 設立の報告

文:松島周子(59 ID15)

同窓生の皆様の寄付金により始まったPeace Bell奨学金も、すでに10年以上継続する事業となりました。その間、およそ100人の奨学生(Peace Bellスカラー)が卒業し、多様な進路をまい進しております。

この度、我々 Peace Bellスカラーは支部を設立いたしました。2012年に最初の卒業生を送り出してから5年となる節目の年に、長い歴史を持つICU同窓会支部に仲間入りできたことを、大変光栄に思います。皆様の寄付に支えられ過ごした大学生活の恩返しの場として、本支部では、現役・卒業スカラー間の連帯を図りつつ、皆様との持続的な交流の機会を設けていきたいと考えています。

また現役スカラーがどのように学生生活を充実させているか、卒業スカラーがどのようにチャレンジを続けているかをご報告する場を設けるとともに、現今のICUとPeace Bell奨学金について知っていただけるよう努めてまいります。今後の活躍にご期待ください!

寄付者御芳名 Donors

齋藤顕一(17)

柴田みさゑ(故柴田明雄(16)令夫人) 貴重なご寄付を賜り、誠にありがとうございます。

たずね人 Missing

池田英人(35 ID91)

深見淳(43 ID99)

田中智己 (49 ID05)

古川真宏 (53 ID09) 市村脩一郎 (57 ID13)

動静をご存知の方は事務局までご一報ください。

訃報 Obituary

楠葉敒子(特別会員)

秋田稔 元ICU教授

井上和子 元ICU教授

渡邊文雄(1)

中山順子(1)

近藤幸滋(2)

吉田卓司(2)

添田久夫(6)

野上忠男(6)

竹村雅彦(7) 榎本義光(8)

秦靖枝(9)

坂入昌宏(10)

金井紀美江(12)

近藤清(13)

安部隆夫(13)

篠村博昭(15)

小野正二(26 ID82)

岩淵恵(29 ID85) 佐伯昌哉(54 ID10)

高振華 (G1968)

石津達也 (G1989)

三木綾子(G2016) 心よりお悔やみ申し上げます。

同窓生向けメールサービス 「@alm.icu.ac.jp」のご案内

2015年度から、大学では学生・教職員のコミュニケーションツールとしてGmail (@icu.ac.jp)が採用され、卒業する際に卒業生全員にアドレス(@alm.icu.ac.jp)が提供されるようになりました。2014年度以前の卒業生もこの卒業生用アドレス(@alm.icu.ac.jp)を無料でご利用いただけます。

卒業生用のドメインは@alm.icu.ac.jp。 大学などの高等教育機関向けであるac.jp のサブドメインです。是非ご利用ください。 詳しくは、以下で

http://www.icualumni.com/mailservice/

福利厚生プログラム ICU同窓会WELBOXのご案内

同窓会では、株式会社イーウェルが運営する「WELBOX」という福利厚生プログラムを導入しています。会員制リゾートホテル・ハーベストが利用できるほか、国内宿泊のお得なプラン、映画や東急ハンズの割引、ヘルスケア、保育サービスなど、多様な優待プログラムが準備されており、同窓会員本人だけでなく、兄弟姉妹や子、孫、祖父母まで利用することができます(2親等以内の家族)。

なお、終身会費をお納めいただいていない方はWELBOXのご利用登録ができません。ご不明な点は、同窓会事務局までお問い合わせください。詳しくは、以下で

http://www.icualumni.com/about/welbox.html

事務局からのお知らせ

★ 広告募集!

本誌では広告を募集しています。フルサイズ6万円、ハーフサイズ3万円で承っております。ご興味のある方は、詳細を 事務局までお問合せください

★ 原稿をお寄せください!

期会、リユニオン等の案内・報告をお寄せください。本誌およびホームページに 掲載いたします。

★住所変更について

住所・勤務先・氏名の変更の際はメール (aaoffice@icualumni.com) または同窓会のホームページの住所変更から、ご一報ください。地方・海外にご転勤の際には支部をご紹介いたします。同窓会事務局までお問合せください。 携帯の方はこちらからどうぞ:



★ ご協力をお願いします。

大学の宣伝=大学への支援という考え方から、同窓生の著作、雑誌インタビューなどには、略歴欄に「国際基督教大学卒業」とお入れいただけますよう、お願い申し上げます。

■大学・同窓会に関する情報が

満載です。ぜひ一度ご覧ください。

同窓会ホームページ

http://www.icualumni.com/

大学ホームページ http://www.icu.ac.jp/ JICUF ホームページ http://www.jicuf.org/

■ ICU 同窓会事務局

〒 181-8585 東京都三鷹市大沢 3-10-2

TEL&FAX: 0422-33-3320

Email: aaoffice@icualumni.com

■ 同窓会広報部(ALUMNI NEWS 編集部)

Email: kohou@icualumni.com

ICU祭のご案内

10月 21 & 22

今年もICU祭の季節がやってきます。

DAY受賞者トークには、あのICUワインの生み し新体育館の建設が始まりました。元気一杯な在学 の親シュローダーさんご夫妻を南アフリカからお招 きします。ICUワインとともにご堪能ください。大 学・同窓会共催ホームカミングでは、今年は「D館 まつり」を企画しています。元D館族のみならず、 お楽しみ頂けると思います。その他、応援企画も盛 りだくさんです。キャンパスでは、新しい寮が完成

生たちの姿も見られます。キャンパスを久しぶりに 訪れる良い機会になると思います。一息つきたいと きはアラムナイハウスへ。カフェや同窓会グッズの ご用意もあります。ではキャンパスでお会いしまし

文:木越純(同窓会会長)

同窓会企画イベントのご案内

DAY受賞者トーク (みどり&ハンス・シュローダーご夫妻)

10月21日(土)午後@アラムハイハウス・ラウンジ

今年のDAY受賞者トークはICUワイン「武蔵野ク ロス」で有名な南アフリカでワインを製造するシュ ローダーご夫妻 (みどりさん:10期・ハンスさん: 13期)をお招きします。お二人はICUで出会い3カ 月後にみどりさんのお父様の大反対の中で結婚。そ の上、当時の南アフリカでは白人と日本人との結

婚は認められずご家族で25年間日本で暮らした後、 ハンスさんの故郷・南アフリカに移住しワイン作り を始められました。お二人の多くの困難にも負けず 人生を切り開いてきた軌跡をお聞きします。皆様ぜ ひお越しください。

大学・同窓会共催ホームカミング 「D館まつり」

10月22日(日) 14:00~@ダイアログハウス2階国際会議場 15:30~@アラムナイハウス・ラウンジ

ディッフェンドルファー記念館東館(通称D館、 ヴォーリス建築事務所)が、近代建築の調査・保存 を推進する国際組織、DOCOMOMO Japanが選 定する2016年度の「日本におけるモダン・ムーブ メントの建築」に選ばれました。ICUの献学から間 もない1958年に竣工したD館は、日本で初めて作

られた学生会館でもあり、思い出深い同窓生の方々 も多いと思います。今回の選出を記念して、レクチ ャー・D館ツアー・懇親会からなる「D館まつり」 を企画しています。ご一緒にお祝いしましょう!なお、 参加申し込みは同封のチラシをご覧下さい。

文:櫻井淳二(同窓会総務部担当副会長)

アラムナイカフェ

開店時間:11:00~16:00 (但し22日は15:00閉店)

@アラムナイハウス2階

今年も開店します。 シュローダーご夫妻のICUワインもあります。 是非お立ち寄りください!



チャリティ整体

両日@本館前テント

毎年恒例、佃隆先生(44 ID00)の 姿勢チェック& ワンポイントカイロプラクティック施術が 体験できる「チャリティ整体」。 今年も出店します。

-- DAY賞候補者をご推薦ください ---

際基督教大学に在籍したことのある方(卒業生・留学生・ 教職員。ただし故人は対象外)の中から、大学、および同

Distinguished Alumni of the Year (DAY) 賞は、国 窓会の知名度・魅力度を高めることに貢献した方に対し、 その功績を称えるために贈呈されます。皆さまからのご推 薦をお待ち申し上げております。

※自薦・他薦を問いません

※推薦、および選考については公開されません。

※推薦は年間を通して受け付けておりますが、毎年10月15日受け付け分までを選考対象として 翌年の桜祭りで受賞者を表彰します。

※受賞者は同窓会Webサイトで発表するとともに、アラムナイニュースでお知らせいたします。

WebサイトのDAY Awardより「DAY賞候補者をご推薦ください」をダウンロードし、必要事項をご記入の上、 ICU同窓会事務局あてに郵送/Fax/E-mailでお送りください。

・推薦したい方の氏名と卒業年、あるいは在籍年(分かる範囲で)

・推薦理由(新聞記事等の客観的資料があれば併せてお送りください)

・あなた(推薦者) の氏名と卒業年

・あなた(推薦者) の住所・Tel.・E-mailアドレス

※歴代受賞者名と略歴は、同窓会HPに掲載しております。

→http://www.icualumni.com/?p=1071

ICU同窓会事務局

〒181-8585東京都三鷹市大沢3-10-2

Tel/Fax: 0422-33-3320

E-mail: aaoffice@icualumni.com

STAFF

EDITOR IN CHIEF

神内一郎 JINNAI, Ichiro (33 ID89/G1992)

MANAGING EDITOR

平澤直子 HIRASAWA, Naoko (45 ID01)

EDITORS

鷲見徹也 SUMI, Tetsuya (13) 鈴木律 SUZUKI, Ritsu (23 ID79) 庄司良 SHOJI, Makoto (24 ID80) 新村敏雄 SHINMURA, Toshio (27 ID83) 小熊由美子 OGUMA, Yumiko (33 ID89)

樺島榮一郎 KABASHIMA, Eiichiro (37 ID93/G1997)

安楽由紀子 ANRAKU, Yukiko (40 ID96) 野仲裕子 NONAKA, Yuko(48 ID04) 飯泉文子 IIZUMI, Ayako (51 ID07) 小林智世 KOBAYASHI, Tomoyo (52 ID08) 加藤菜穂 KATO, Naho(53 ID09) 岡本早織 OKAMOTO, Saori (60 ID16) 水野愛子 MIZUNO, Aiko (62 ID18)

PHOTOGRAPHER

一之瀬ちひろ ICHINOSE, Chihiro (42 ID98) MIYAMORI, Koh (59 ID15) 宮森洸

ART DIRECTOR

佐野久美子 SANO, Kumiko (44 ID00)

PRINTING DIRECTOR

坂井健 SAKAI, Takeshi(小宮山印刷)

EXECUTIVE DIRECTOR

松島眞理 MATSUSHIMA, Mari (36 ID92)

PUBLISHER

木越純 KIGOSHI, Jun (27 ID83)

ご意見・ご感想をお気軽に

アラムナイニュースは、同窓生のみなさまの ために制作しているものです。今後の制作の参 考にしますので、ご意見・ご感想、企画や人物 の紹介等がある方は、メールにてお気軽に事務 局までお知らせください。

アラムナイニュース編集部員募集

あなたの経験をANに生かしてみませんか? 企画、取材、執筆、撮影、編集進行等を一緒に なって頂ける方を大募集中です。もちろん未経 験でも可。最初は一緒に取材などを行いながら 編集のプロから直接技術を学べますし、3年ぐ らいやれば、一通り編集の基本が身に付きます。 もちろん、現役の学生さんも大歓迎です。興味 のある方は、同窓会事務局へメールでご連絡く ださい。

aaoffice@icualumni.com

cover photo: Koh Miyamori (59 ID15)

